

320
276



始



特234
225



藥

用

植

物



九州藥用植物研究會編



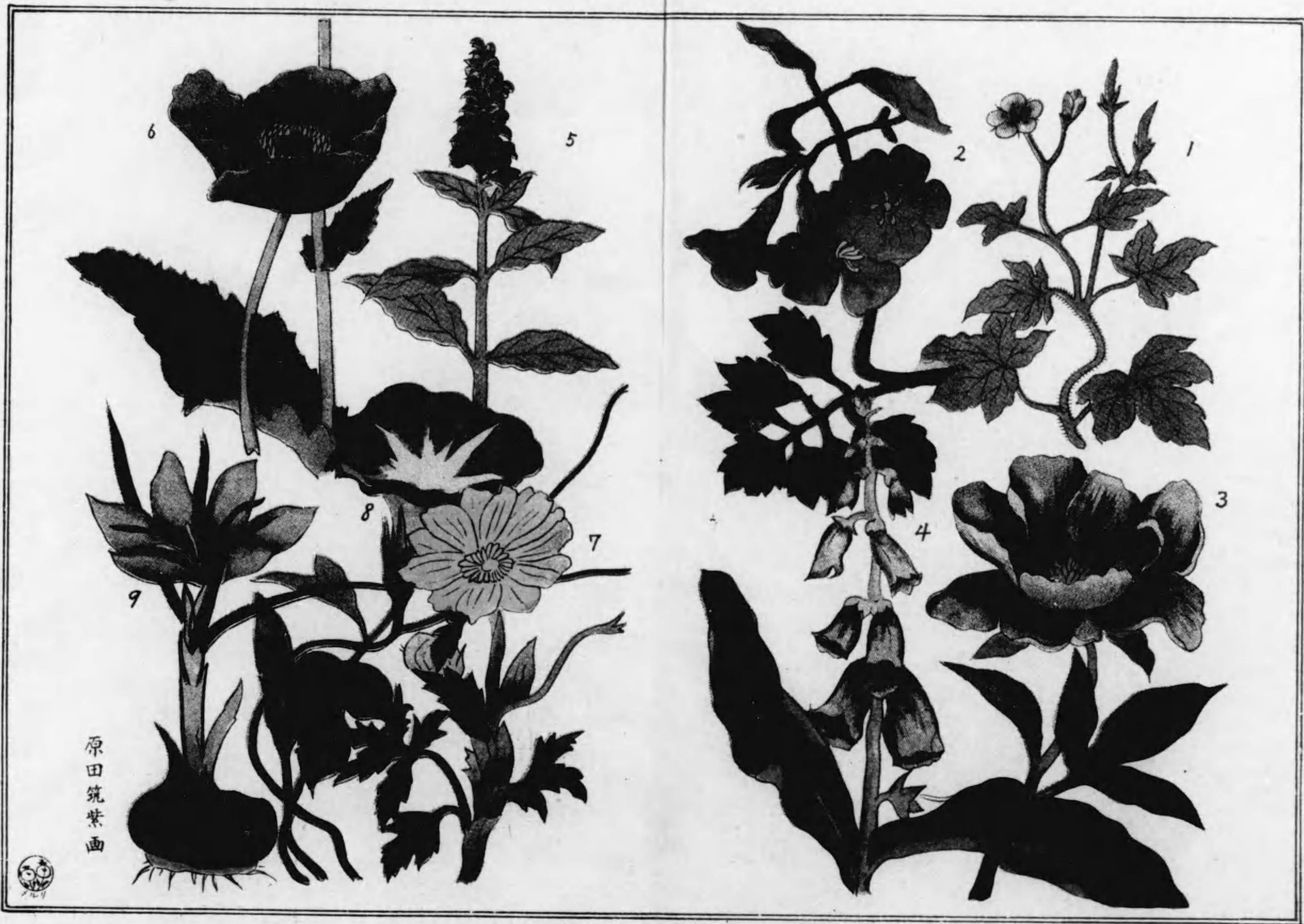
編者

東京
出版

藥用
材料

大正藥房發行





原田筑紫画

シケ(6) サグボツウ(5) ラヅカンゼウノ(2) コウヨシノゲ(1)
 ンラフサ(9) ホガサア(8) ウサユジクフ(7) スリタキヂ(4) クヤクヤシ(3)

自序

回顧すれば六十年の昔、鎖國の夢破れて明治維新の大業となり、對
外交通頻繁なるに従ひ、泰西の文明は滔々として我帝國に波及し、百
般の文物制度一として空前の變革を蒙らざるものなかりき、然れど
も泰西文明の輸入に急なる餘、彼の長を採りて我の短を補ふ靜慮を
失し、一に西洋二に歐米と所謂泰西心酔の飛沫は、往々にして帝國
の國利國情に背反する結果を惹起したるもの亦尠しとせず、世は既
に大正を経て昭和の聖代に遭著したり、輓近世界を擧げて東洋研究
熱の勃興と共に精神上物質上漸く我同胞の覺醒を促し、西洋文明必
ずしも貴からず、帝國には帝國特有の美點と長所あることを自識す
るに至りたるは、寔に慶賀に堪わざる次第なり。

保健衛生を司る醫藥方面に於ても亦同一の經路を辿れるが如し、明治初年日本藥局方の第一版成る、其内容を閱するに西洋諸國殊に獨乙藥局方の亞流と極言するを得べく、之に包容せる藥物は僅に數種又は十數種の帝國自生品を除き、總て之を海外に求めざるべからざるに至れり、從來國內に相當の成績を擧げたる和漢方は一蹴せられ、之に用ゐたる藥品は草根木皮として捨てて顧みられず、微に民間の一部に其餘命を保つに過ぎざりき、然るに其後數十年を経て大正十年に至り、其第四版成るや國利を攷へ國情に鑑み異常の大改革を斷行し、即可成自産品を採用し海外品を排斥したり、之が爲め一旦捨てられたる和漢方の藥品にして再生の恩惠に浴したるもの二三にして止まらず、後れたりと雖も頗多とするに足る、熟々史を按ずるに西洋醫學は源を古代埃及に發し希臘羅馬を経て歐洲諸國に傳

はり今日の隆盛を見るに至り又東洋醫術は支那に於て既に神農時代に相當の研修を積み現に神農本經の著書あり、彼に手術注射の玄妙あるに對し是に根治即療の神技あり、一長一短容易に門外漢の批判を許さず。

編者は元來一介の法律書生なり、只趣味として十數年來山野を跋渉し、植物の採集栽培に勉め傍有毒藥用の品種を究めて聊其知識を得たり、近時同志と共に九州藥用植物研究會を組織し、其事務所を邸内に置き會員の末斑に列せり、而して自ら惟はず本書を公にするに至りたる理由は他なし、各國の藥局方を通覽するに藥品の多數は之を植物質に採り動物質礦物質の物は總じて少數なり、我藥局方亦藥品の大多數を植物質に採れりと雖も其多致は依然として外國産にして殊に劇毒藥多く、容易に一般世人の入手を許さず、加之局方に收載

公認せる品種は内外産を通じて比較的少数なり、然らば果して公認薬以外には有効なる草根木皮なきか、我自産品は果して公認の外産品に勝るものなきか、我民間慣行の實例に照し頗疑問なきを得ず、今や帝國所謂經濟國難の秋、農林省の調査に依れば藥品の輸入價額毎年二億圓を下らずと言ふ、苟も一片憂國の志ある者何人か此の統計を看過し得べき、若夫八千萬同胞の協力を俟ちて之を防止し得べしとせば國家の爲め至幸至福の事に屬す。

本書編纂の目的は同胞をして現在帝國に如何なる植物質の薬品行はれ又行はるべきかを知らしむるに在り、大別して二種とす一は局方薬即公認薬にして他は民間薬即非公認薬なり而して民間薬中には從來の和漢方薬にして局方に入らざるもの及び從來何等の薬方にも入らず只習慣的に薬用せらるるものをも包含す、編者は勉めて此等

の諸薬用植物を網羅し傍其薬效用法等を記述したり、特に編者は著書に示現せざる所謂習慣薬の蒐集に腐心し、不取敢薬效確實なりと思料する數種を選択して之を公表するこここしたり、追て機を見て増補すべし、少數なれども編者の勞苦を買はれたし、尙此に注意せらるべき一事あり即病名定まりて然る後服薬すべきこと是なり、此事は如何なる範圍に於て民間薬の行はるべきかを決する重大問題にして疾病あれば必ず先づ信用ある醫師の診察を請ひ又信用ある薬局に就き薬を求むべきことに歸著す、然れども病原明かなるか、僻地にして醫師なきか或は醫師の來診を待つ能はざる場合の如きは勿論應急手當或は補助薬として本書の智識を活用すべき充分の餘地ありと信ず。

國立營養研究所長佐伯博士一派の學者は食物即藥物なり兩者は別個

に切放して考ふべきものにあらずと主張し其宿志遂に達せられて國立營養病院の設置を見るに至れり、其内容は未だ熟知せざれども要するに醫師の診察に基き食品を以て疾病を治癒するに存す、編者同人も亦同博士一派の名論に共鳴し滿腔同病院の發展を祈る、蓋し吾人常食品の起源を遡究せんか、太古蒙昧醫藥なき時代に於て人若し疾病あれば多くは草根木皮を採り之を以て病を治せむと試み會々其病に適する物あれば之を常食して健康を回復し兼て之を豫防せんとするは人類自然の性情にして甲傳へ乙語り種族部落の慣例となり漸く調理の方法等を加味して終に今日の食料品となりたることは容易に之を想像し得べければなり、編者は此見地より日常の飲食品數十種を薬用として本書に収載したり。

本書所載總計四百五十三種、編纂の体裁は最初各名稱を掲げたり、

此名稱は植物學上の和名を基礎とし漢名洋名あるものは其下に之を併記したり又和名あれども漢洋名の方寧ろ世人に知れ易しと思惟するものに限り漢洋名を先にして和名を後に掲げたり、次に植物の科名を掲げたり一々科名を記憶するは至難の業なれども同科の植物は形態性質等共通の點多く其一種を知れば他の一種を忖度し得べき實益あればなり、次に形狀等を簡説し行文は可成平易を旨とせり尤も世間周知の品種は説明を省きたるもの尠からず又含有成分の明瞭なるものは可成之を掲げ、最後に藥效用法等に關しては公認藥は局方に依りて之を記載し民間藥は諸種の醫藥書等に依り或は和漢方の秘傳口授乃至編者同人の體驗見聞等を尠酌して可成誤謬なからんことを期したり。

本書編纂に付ては相當多數の日子を消費し又相當多數の和漢洋書

類を涉獵したり、特に植物書に於ては三好牧野兩博士、村越三千男、坂庭清一郎諸氏の著書に又醫藥書に於ては日本藥局方の外故寺島良安貝原益軒兩先生、下山博士、森島朝比奈柴田三博士、丸山房雄、糸左近、松島種美、小泉榮次郎、日野五七郎、一色直太郎諸氏の著書に負ふ所多く且實際方面に於ける藥用植物の形態著書の體裁藥效川法等に關しては八女郡下廣川村民間博物學者原田萬吉、久留米市西町高山植物栽培家竹田定、同市諏訪野町前長崎醫學專門學校教授堀内松五郎、同市新町藥劑師井上正人諸氏の援助を得たること尠からず、謹みて謝意を表す。

尙右原田氏令息にして來日畫會の新進原田筑紫君は特に本書の爲に挿畫を染筆せられ秋山東原兩印刷所所員諸君は本書の印刷發行に關し多大の努力を拂はれたり、同じく謝意を表す。

今上陛下曠古の御大典に際し奉祝紀念の意味に於て本書を編纂上版す。

昭和參年拾貳月

編者識

凡例

- 一、薬用植物記載の順序は普通植物書の大勢に順應して所謂アカサタナ順をなし阿行より始め一行を終りたる後加行に移り更に一行を終りたる後佐行に移り始終之を繰返したる後完了することゝなしたり而してイミキ、エミエ、オミヲは之を同所に排列し又濁音半濁音は各其清音の部に之を排列したり。
- 一、一種にして二個以上の和名を有し又は漢名洋名を有するものは各本條及び植物名索引中に之を掲げ方言俗稱は却て紛雜を生ずる虞あるが故に數種を除く外之を記載せざることゝしたり。
- 一、各本條記載の病名は必ずしも學理系統に依據せず家庭書としての本旨に従ひ多數の人に可成了解し易からしむる爲の便宜に出でたり又植物名索引の外病名に依る索引を設け之を六十餘種の病名に區別したるも全然同趣旨に出で實際上の便宜に基くものなり。
- 一、生薬は其人其地方其時期に依り入手に難易あるべし要は可成手近のものを採擇するに在り又和漢洋三方を通じ合薬を稱するものあり患者の體質細胞組織等の如何に依り甲者に合ひ效あれども乙者に合はず効なき場合あり此場合乙者は敢て悲觀するに及ばず同効の他薬を撰擇する内自ら有效薬に逢著すべし。
- 一、生薬有効期間は各本條に明記せる場合は勿論明記なきも之に準じ大凡一箇年間を以て故に廢物の鐵葉

罐等を利用し濕氣や微の生ぜざる様注意して貯藏し且可成毎年採り換へ新物を用ひらるべし若し丁幾或は越幾斯を製する工夫あらば藥效久しきに堪え頗る妙なり其製造の方法は極めて簡單にして且製造用器等は廉價なり信用ある藥店に就き承合せらるべし。

- 一、各本條に特別の記載なき限り生藥の乾燥方法は葉、莖及び花は陰干にして根、皮、果實及び種子は陽乾即ち天日干にして用るるべし又其採取季節は葉、莖及び花は開花時前後、果實及び種子は成熟時、根及び皮は秋彼岸前後より春發芽前迄の中間時なり要は其各部の勢力最旺盛なる時季を尙ぶ。

- 二、民間藥の煎用方法は種々の學說應用あり雖も通常藥品を二合五勺の水に入れ文火即ちトロ火にて一合五勺に煎じ詰むるか又は二合の水に入れ武火にて一合五勺に煎じ詰むるか孰れか一方法を用うれば大差なし信ず、因に容器は金屬類を忌む。

- 三、各本條中用量の記載なき場合は其藥品が劇藥の記載なき限り所謂用量適宜なり少々位飲み過ぎたりして副作用を起すことなし民間植物藥の特徴は此に存す安心せられて可なり。

- 四、用量は大人を標準として記載したり小兒は年齢に従ひ其二分の一乃至四分の一に低減せられたし。各本條中食前食後とあるは食時の前後共三十分乃至一時間の空間を言ふ又右前後の記載なき場合は服用隨時たるべしとの意なり。

- 五、用量は現時の實情に鑑み日本藥局方藥及び極少量の場合の外瓦を以て表はさず匁を以て之を表はしたり。

たり。

- 一、藥品服用し難き場合少量の甘草を加へて煎用し或は煎出後に少量の糖分を加へ味を緩和するは何等差支なし。

- 二、本書に基き或種の生藥を實驗せられたる場合其病名經過等を知せられ或は其地方の習慣藥を通知せらる、榮を得ば敢て編者同人等の便益のみに止まらず一般世人の幸福に歸著すべし。

- 三、藥用植物にして本會附屬又は依托の藥園に存する物は希望に依り實費を以て分讓することあるべし。

植物名に依る索引

七六六五五四三二一〇

Index of plant names based on the text on the opposite page. The text is extremely faint and illegible due to the quality of the scan.

植物名に依る索引

植物名に依る索引

ア

一、アキ	一
一、アラキ 一名アヲキバ	二
一、アヲツヅラフヂ 一名ツヅラフヂ	二
一、アカザ	三
一、アカネ	四
一、アギ	四
一、アキノキリンサウ 一名アハダチサウ	五
一、アケビ	五
一、アサ	六
一、アサガホ	六
一、アセビ 一名アセモ、アセミ	七

頁數

一、アセシヤタ	七
一、アスバラガス 和名マツパウド	八
一、アヂサキ	九
一、アヅキ	九
一、アブラナ 一名ナタネナ	九
一、アマ	〇
一、アマチャノキ	〇
一、アマドコロ	一
一、アヤメ	一
一、アラビヤゴムノキ	二
一、アラメ	二
一、アルテア 和名ウスベニアフヒ	三
一、アンズ 一名カラモモ	三
一、アンソクカウ	四
一、アンモニアクム	五

イキ

一、イカリサウ	五
一、イケマ	六
一、イスラントゴケ 一名エーランタイ	六
一、イタドリ	七
一、イチゴ	八
一、イチジク	九
一、イチハツ	九
一、イチヤクサウ	〇
一、イテフ	〇
一、イヌザンセウ	一
一、イスタデ	一
一、イネ	二
一、キノコヅチ 一名フシダカ	二

一、イハタバコ 一名イチハヂサ 二二二
一、イボタノキ 二二三

ウ

一、ウキキヤウ 二二四
一、ウコギ 二二四
一、ウツボグサ 一名カコサウ 二二五
一、ウド 二二六
一、ウマノスズクサ 一名ウマノスズカケ、オハグロバナ 二二六
一、ウメ 二二七
一、ウワウルシ 一名クマコケモモ 二二七

エエ

一、エノキ 一名メムクノキ 二二八
一、エビスグサ 一名ケツメイ 二二九
一、エビヅル 二二九

一、エブリコ 一名トウボシ 三三〇
一、エンゴサク 三三〇

オヲ

一、オキナグサ 三三一
一、ヲケラ サウジュツ、ビヤクジュツ 三三一
一、オシロイバナ 三三二
一、オトギリサウ 三三二
一、オナモミ 三三三
一、オニシバリ 一名ナツボウズ 三三四
一、オホバコ 三三四
一、オホヒナノウスツボ 三三五
一、オモダカ 三三五
一、オランダセリ 洋名バースレー 三三五
一、オレイフ 三三五

カガ

- 一、カイソウ 三六
- 一、カエブテ 三七
- 一、カカオノキ 一名ココアノキ、チヨコレートノキ 三七
- 一、カキ 三八
- 一、カキドウシ 三八
- 一、カキノハダサ 三九
- 一、カサモチ 三九
- 一、カシユウ 和名ツルドクダミ 四〇
- 一、ガジュツ 四一
- 一、カスカリラ 四二
- 一、カタバミサウ 一名スイモノグサ 四二
- 一、カタムグラ 四三
- 一、カニクサ 一名ツルシノブ 四四

- 一、カハチサ 四四
- 一、カハヤナギ 四五
- 一、カハラクツメイ 四五
- 一、カハラヨモギ 四五
- 一、カブラ 四六
- 一、カヘデ 四六
- 一、カマラ 和名クスノハガシハ 四七
- 一、カミツレ 一名カミルレ 四七
- 一、カヤ 四八
- 一、カラシナ 四八
- 一、カラスウリ 四九
- 一、カラタチ 四九
- 一、カラマルマメ 五〇
- 一、カリヤス 五〇
- 一、カンアフヒ 附 ウスバサイシン 五〇

キギ

- 一、キウリ 五一
- 一、キカラスウリ 五一
- 一、キキヤウ 五二
- 一、キササゲ 一名アツサ 五二
- 一、ギシギシ 一名ノダイワウ 五三
- 一、キヅタ 一名フユヅタ 五三
- 一、キツネノボタン 五三
- 一、キツネノマゴ 五四
- 一、キナ 五四
- 一、キハダ 五五
- 一、キフヂ 一名マメフヂ 附 フヂ 五六
- 一、キムラタケ 一名オニク 五七
- 一、キランサウ 一名デゴクノカマノフタ 五七

- 一、キリ 五八
- 一、キンカン 五八
- 一、キンシバイ 五八
- 一、キンミヅヒキ 五九

ク

- 一、クカイサウ 五九
- 一、クコ 六〇
- 一、クサギ 六〇
- 一、クサスギカヅラ 一名テンモンドウ 六一
- 一、クサネム 六一
- 一、クサノワウ 六二
- 一、クサボケ 六三
- 一、クズ 六三
- 一、クスノキ 六四

- 一、クソニンジン.....六五
- 一、クチナシ.....六五
- 一、クツソ.....六六
- 一、クハ.....六六
- 一、クマツヅラ.....六六
- 一、クララ 一名クサエンジュ.....六六
- 一、クリ.....六七
- 一、クリンサウ.....六七
- 一、クルミ.....六八
- 一、クロウメモドキ.....六八
- 一、クログワキ.....六八
- 一、クロゴマ.....六九
- 一、クロマメ.....六九
- 一、クワキ.....七〇
- 一、クワツシアジュ.....七〇

- 一、クワリン.....七一
- 一、クワンザウ.....七二

ケゲ

- 一、ケイ.....七三
- 一、ケイガイ 一名アリタサウ.....七三
- 一、ケイトウ.....七四
- 一、ケシ.....七四
- 一、ゲツケイジユ.....七五
- 一、ゲンチアナ.....七五
- 一、ゲンノシヨウコ 和名フウロサウ.....七六

コゴ

- 一、コガネバナ 一名ゴガネヤナギ、ワウゴン.....七七
- 一、コクサギ.....七八

- 一、コケモモ 一名イハナシ、ハマナシ、イハモモ 七八
- 一、ゴシユユ 七九
- 一、コセウ 七九
- 一、コセウサウ 洋名セルレデー 八〇
- 一、コナスビ 八〇
- 一、コノテガシハ 八〇
- 一、コバイバ 一名コバイバルサム 八一
- 一、ゴバウ 八二
- 一、コマツナギ 八二
- 一、コヒーノキ 八三
- 一、ゴマノハグサ 八三
- 一、コルヒクム 和名イヌサフラン 八四
- 一、コロシントサウ 八四
- 一、コロンボ 八五
- 一、コンニヤクイモ 八五

- 一、コンヅ 八五

サザ

- 一、サイカチ 八六
- 一、サイハイラン 八六
- 一、サクラ 八七
- 一、ザクロ 八七
- 一、ザゼンサウ 一名ダルマサウ 八八
- 一、サタウキビ 一名サタウノキ、サタウダケ 八九
- 一、サツサフラス 八九
- 一、サツマイモ 一名タウイモ、カライモ 九〇
- 一、サトイモ 一名イモ、ハタケイモ 九〇
- 一、サネカヅラ 一名ビナンカヅラ、トロロカヅラ 九一
- 一、サフラン 九一
- 一、サポテン 九二

- 一、サホヒメ 一名ヂワウ 九三
- 一、サルヅイヤ 九三
- 一、サルヲカゼ 一名サガリゴケ、マツノコケ 九四
- 一、サルサ 一名サルサバリルラ 九五
- 一、サルトリイバラ ワサンキライ 九五
- 一、サルノコシカケ 附 レイシ 九六
- 一、サレツブ 九六
- 一、サンザシ 九七
- 一、サンシチサウ 九七
- 一、サンシユユ 九八
- 一、サンセウ 九八
- 一、サントウ 一名トウツルモドキ 九九
- 一、シウカイダウ 九九

シジ

- 一、シラン 〇〇
- 一、シクンシ 〇〇
- 一、シシウド 〇一
- 一、シソ 〇一
- 一、シナ 一名セメンシナ 〇一
- 一、シヒタケ 〇二
- 一、シヤウガ 〇二
- 一、シヤウブ 〇三
- 一、ジャガタライモ 一名ジャガイモ 〇三
- 一、ジャカウサウ 〇三
- 一、シヤクヤク 〇四
- 一、ジユスダマ 〇四
- 一、シユスラン 〇五
- 一、シユロ 〇五
- 一、ジエンサイ 〇五

一、シユンラン 一名ホクロ 一〇六
 一、シラン 一〇六
 一、シワウ 一〇七

ス

一、スキクワ 一〇七
 一、スキセン 一〇八
 一、スキバ 一名スカンボ 一〇八
 一、スキ 一〇九
 一、スキナ 一〇九
 一、スキ 一名ラバナカヤ 一一〇
 一、スズラン 和名キミカゲサウ、タニマノヒメユリ 一一〇
 一、ストロファンツス 一一一
 一、スヒカヅラ 一名ニンドウ 一一一
 一、スベリヒユ 一名ヌメリヒユ 一一二
 一、スマイレ 一一二

セゼ

一、セウツク 一一三
 一、セキシヤウ 一一四
 一、ゼニアフヒ 一一四
 一、セネガ 一一四
 一、センキウ 一一五
 一、センタリウム 一一五
 一、センダン 一一六
 一、センナ 一一六
 一、センブリ 一名タウヤク 一一七
 一、ゼンマイ 一一七

ソ

一、ソガウカウ 一一八

一、ソテツ
一、ソバ

タダ

一、ダイコン 一一九
 一、ダイコンサウ 一一〇
 一、ダイダイ 一一〇
 一、ダイフウシ 一一一
 一、ダイワウ 一一二
 一、タウガラシ 一一二
 一、タウキ 一一三
 一、タウコギ 一名タウゴキ 一一三
 一、タウゴマ ヒマシ 一一四
 一、タウモロコシ 一一五
 一、タウヤタリンダウ 一一五

一、タカトウダイ 一二五
 一、タガラシ 一名タララビ、ドブゴセウ 一二六
 一、タチジャカウサウ 一名チームスサウ 一二七
 一、タニジャカウサウ 一二七
 一、タデ 一名マタデ、ホンタデ 一二八
 一、タマネギ 一二八
 一、タマリンド 和名テウセンモダマ 一二九
 一、タラノキ 一名ウドモドキ 一二九
 一、タンキリマメ 一三〇
 一、ダンヲク 一名ヨシタケ 一三〇
 一、タンポポ 一三一

チヂ

一、チガヤ 一名ツバナ 一三一
 一、チキタリス 和名キツネノテブクロ 一三二

- 一、チサ 一名チシヤ、カキヂサ 一三三
- 一、チャ 一三三
- 一、チャウジ 一三三
- 一、チモ 和名ハナスゲ 一三四
- 一、チンチャウゲ 一三五

ツ

- 一、ツバキ 一三五
- 一、ツハブキ 一三六
- 一、ツメグサ 一名スズメグサ、タカノツメ 一三七
- 一、ツユグサ 一三七
- 一、ツリガネニンジン 一名ヤマシヤジン、ツリガネサウ 一三八
- 一、ツルナ 一名ハマナ 一三八

テ

- 一、テウセンアサガホ 一名マンダラゲ、キチガヒナス 一三九

- 一、テッポウユリ 一四〇
- 一、テリハボク 一名ヤラボ 一四一
- 一、テングサ 一名トコロテングサ、ココロブト 一四一
- 一、テンダイウヤク 一四二
- 一、テンナンシヤウ 一四二

トド

- 一、トキンサウ 一名ハナヒリグサ 一四三
- 一、トクサ 一四四
- 一、ドクダミ 一名ジウヤク 一四四
- 一、トコン 一四五
- 一、トチノキ 一四六
- 一、トチバニンジン 一名チクセツニンジン 一四六
- 一、トマト 和名アカナス 一四七
- 一、トラガカンタ 一四七

一、トリカブト 一名ヤマドリカブト、カブトバナ 一四八
 一、トリモチノキ 一名ヤマグルマ、オホモチノキ 一四八
 一、トロロアフリ 一名ネリ、トロロ 一四九

ナ

一、ナギナタカウジユ 一四九
 一、ナス 一名ナスビ 一五〇
 一、ナツミカン 一名ナツダイダイ 一五〇
 一、ナツメ 一五一
 一、ナハシログミ 一名タワラグミ 一五一
 一、ナルコユリ 一五一
 一、ナンキンマメ 一五三
 一、ナンテン 一五三

ニ

一、ニウカウ 一五四

一、ニガウリ 一名ツルレイシ 一五五
 一、ニガキ クワツシアボク 一五五
 一、ニガヨモギ 洋名アルセム 一五六
 一、ニクケイ 一五七
 一、ニクヅク 一五七
 一、ニシキギ 一五八
 一、ニシキサウ 一名チチグサ 一五八
 一、ニハトコ 一五九
 一、ニラ 一六〇
 一、ニンジン 一六一
 一、ニンジンボク 一六一
 一、ニンニク 一六二

ヌ

一、ヌルデ 一名フシノキ 一六二

ネ

一、ネギ 一六三
一、ネズミサシ 一名ネズ 漢名トシヨウ 一六四
一、ネムノキ 一名ネブタ 一六四

ノ

一、ノイバラ 一六五
一、ノウゼンカヅラ 一六六
一、ノダケ 一名ノゼリ、コマゼリ、ゼンコ 一六六

ハババ

一、バイケイサウ 一六七
一、ハイモ 洋名カラチユウム 一六七
一、バイモ 和名アミガサユリ 一六八
一、バインアツブル 一六八

一、ハウキグサ 一名ハハキギ 一六八
一、バウフウ ハマバウフウ 一六九
一、ハウレンサウ 一七〇
一、ハクカ 一名メグサ 一七〇
一、バクカクキン 一七一
一、ハクセン 一七二
一、バクチノキ 一七二
一、ハクテウゲ 一七三
一、ハクモクレン 一七三
一、ハコネシダ 一名ハコネサウ 一七四
一、ハコベ 一名ハコベラ 一七四
一、ハシリドコロ 一名オメキグサ 一七五
一、ハス 一七六
一、バセウ 一名バセヲ 一七六
一、ハヅ 一七七

- 一、ハトムギ 一名タウムギ 一七七
 - 一、バナナ 一七八
 - 一、ハヒマツ 一七八
 - 一、ハブサウ 一七八
 - 一、ハマスゲ カウブシ 一八〇
 - 一、ハマナス 一八〇
 - 一、バラ 一名セイヤウバラ 一八一
 - 一、ハラシ 一八一
 - 一、ハリビユ 一八二
 - 一、ハルオミナヘシ 一名カノコサウ 一八二
 - 一、ハンゲ 和名カラスビシヤク 一八三
- ヒビ**
- 一、ヒカゲノカヅラ 一八四
 - 一、ヒガンバナ 一名マンジュシヤケ 一八四

- 一、ヒキオコシ 一八四
- 一、ヒジキ 一八五
- 一、ヒソツブ 一八五
- 一、ヒツジグサ 一名スイレン 一八五
- 一、ヒツチヨウカ 一八六
- 一、ヒドラスチス 一八六
- 一、ヒノキ 一八七
- 一、ビハ 一八七
- 一、ヒマハリ 一八八
- 一、ヒメハギ 一八八
- 一、ビヤウヤナギ 一八九
- 一、ビヤクダン 一八九
- 一、ビヤクブ 和名ホドヅラ 一八九
- 一、ヒヤクリカウ 一名イブキジャウカウサウ 一九〇
- 一、ヒヨス 一九〇

- 一、ヒヨドリジヨウゴ 一名ホロシ
- 一、ヒルガホ
- 一、ヒレハリサウ
- 一、ビンラウジ 一名ビンラウ

フブ

- 一、フキ
- 一、フタジユサウ
- 一、ブクリヤウ
- 一、ブダウ
- 一、フヂマメ
- 一、ブナ 一名ホンブナ、シロブナ、ヤマブナ
- 一、フノリ
- 一、フランダラジユ

一九一
一九一
一九二
一九二
一九三
一九三
一九四
一九四
一九五
一九五
一九六
一九六

へべ

- 一、ヘクソカヅラ 一名ヤイトバナ
- 一、ヘチマ 一名イトウリ
- 一、ベニバナ
- 一、ベラドンナ
- 一、ペルーバルサム
- 一、ペンケイサウ
- 一、ヘンタウ 一名アmendウ
- 一、ヘンルウダ

ホボボ

- 一、ホウセンクワ 和名ツマグレナイ、ツマグレ
- 一、ボウブラ 一名カボチャ
- 一、ボタン

二〇一
二〇二
二〇二

- 一、ホツブ 二〇三
- 一、ホドフキルム 二〇三
- 一、ホホヅキ 二〇四
- 一、ホルトサウ 一名ハンシレン 二〇四

マ

- 一、マクリ 一名カイニンサウ 二〇五
- 一、マクワウリ 二〇六
- 一、マダイワウ カラダイワウ 二〇六
- 一、マダケ 二〇七
- 一、マタタビ 一名ナツウメ 二〇七
- 一、マチン 二〇七
- 一、マツ 二〇八
- 一、マメ 一名ダイヅ 二〇九
- 一、マユミ 二〇九

附 ハメリス

- 一、マンサク 二〇九
- 一、マワウ 二一〇
- 一、マンナ 二一〇
- 一、マンネンロウ 二一一

三

- 一、ミイロスマレ 洋名バンジー 二一二
- 一、ミカン 二一二
- 一、ミシマサイコ 一名カマクラサイコ 二一三
- 一、ミソハギ 二一三
- 一、ミヅガシハ 一名ミヅハンゲ 二一四
- 一、ミヅゴケ 二一四
- 一、ミヤマトペラ 二一四
- 一、ミルラ 二一五

ム

一、ムギ 二二六
 一、ムクゲ 二二六
 一、ムクロジ 一名ツブ 二二七
 一、ムベ 一名トキハアケビ 二二七

メ

一、メウガ 二二八
 一、メギ 二二八
 一、メグスリノキ 一名ミツババナ 二二九
 一、メナモミ 二二九
 一、メハジキ 一名ヤクモサウ 二二〇
 一、メンマ 二二〇

モ

一、モモ 二二一

ヤ

一、ヤツデ 一名テングノウチハ 二二二
 一、ヤナギ 一名シダレヤナギ 二二二
 一、ヤハヅツノマタ 洋名カラージェン 二二二
 一、ヤブタバコ 二二三
 一、ヤブラン 二二三
 一、ヤボランヂ 二二四
 一、ヤマアキ 二二四
 一、ヤマゴバウ 二二五
 一、ヤマジン 二二五
 一、ヤマシヤクヤク 二二六
 一、ヤマノイモ 二二六
 一、ヤマブドウ 二二七
 一、ヤラバ 二二七

ユ

一、ユウカリ

一、ユキノシタ

一、ユサウボク

一、ユズ

一、ユストラウメ

ヨ

一、ヨシ 一名アシ

一、ヨモギ

一、ヨロヒグサ

ラ

一、ラヴェンデル

一、ラクチユカリウム

リ

一、リウゼツラン 一名マンネンラン

一、リウナウ

一、リヤウブ

一、リンゴ

一、リンダウ 一名ササリンダウ

レ

一、レモン

一、レンゲウ 一名イタチグサ

ロ

一、ロクワイ キタチロクワイ

一、ロベリヤ

一、ローマカミツレ

病名に依る索引

ワ

三六

- 一、ワウレン 一名キクバワウレン 二三九
- 一、ワカメ 二四〇
- 一、ワサビタイコン 一名セイヤウワサビ 附 ワサビ 二四〇
- 一、ワスレグサ 二四一
- 一、ワタ 二四二
- 一、ワラビ 二四二
- 一、ワレモカウ 二四三

終

病名に依る索引

病名に依る索引

目次	頁數
一、胃癆	一
一、胃腸諸症	一
一、疣及ビ魚ノ目	二
一、陰痿、強壯	三
一、咽喉及ビ氣管支疾患	三
一、壞血病	四
一、脚氣	四
一、霍亂	四
一、火傷、湯傷、凍傷	五
一、疳	五
一、間歇熱	五
一、肝臟病	六

目次	頁數
一、眼病	六
一、感冒諸症	六
一、寄生虫驅除(絲虫其他)	七
一、花柳病(梅毒、淋病其他)	八
一、下劑、吐劑	八
一、解毒、下毒(咬毒、螫毒其他)	九
一、解熱(感冒、胃腸、肺其他)	〇
一、下痢止(赤痢其他)	〇
一、口中諸症	一
一、興奮藥	一
一、催眠藥	二
一、止血藥	二

齒諸症	一二
ジブテリヤ	一三
シヤクリ	一三
食傷	一三
神經諸症	一三
心臟諸症	一四
腎臟、膀胱諸症	一四
水腫、腸滿	一五
清血、補血藥	一五
疝氣諸症	一六
瘡腫(癰、疔、漆瘡其他)	一六
打撲其他傷害	一七
丹毒	一七
痔疾	一八
乳房諸症	一八

中毒	一八
中風	一九
鎮咳、祛痰(喘息其他)	一九
傳染病	二〇
糖尿病	二〇
刺拔	二〇
腦病(頭痛其他)	二〇
肺、肋膜諸症	二〇
破傷風	二一
鼻諸症	二二
皮膚病(疥癬其他)	二二
百日咳	二三
婦人病	二三
耳諸症	二四
盲腸炎	二四

一、毛髮藥	二五
一、腰痛、膝痛、脚痛	二五
一、癩病	二五
一、利尿、遺尿	二五
一、リュウマチス、神經痛、痛風	二六
一、瘰癧	二七
一、黃疸	二七

一、青洲	二六
一、謝儀	二六
一、リウイウイキキ、轉譯、謝儀	二六
一、麻果、糞果	二六
一、藥味	二六
一、運流、謝儀、轉譯	二六
一、三藥	二六

一、胃癌

カハチサ、クサノワウ、ミヤマトペラ

一、胃腸諸症

アサガホ、アブラナ、アラビヤゴムノキ、アルテア、アンソクカウ、イケマ、イスラドゴケ、イタドリ、イハタバコ、イボタノキ、ウキキヤウ、エビスグサ、ヲケラ、オホバコ、ガジュツ、カスカリラ、カナムグラ、カハヤナギ、カハラケツメイ、ギシギシ、キナ、キハダ、クサネム、クズ、クロウメモドキ、クログワキ、クログマ、クワソシアジユ、ケイ、ケイガイ、ケシ、ゲンチアナ、ゲンノシヨウコ、ゴシユユ、コセウ、ゴバウ、コマツナギ、コロソボ、コンブ、サイハイラン、サネカヅラ、サフラン、サルヴィヤ、サレツブ、サンセウ、シャウガ、シャウブ、シャクヤク、スギナ、セウツク、セ

シタリウム、セナナ、センブリ、ダイコン、ダイダイ、ダイワウ、タウガラ
 シ、タウコギ、タウヤクリンダウ、タチジャカウサウ、タマネギ、タラノキ、
 タンボボ、ツルナ、テウセンアサガホ、テンダイウヤク、トチノキ、トチバナ
 ンジン、トマト、トロロアヒ、ニガウリ、ニガキ、ニガヨモギ、ニクケイ、
 ニクヅク、ニハトコ、ニラ、ニンジン、ニンニク、ネギ、ノイバラ、パイ
 ンアツブル、ハウレンサウ、ハクカ、ハクテウゲ、ハコベ、ハス、ハトム
 ギ、ハブサウ、ヒツチヨウカ、ビンラウジ、フキ、ブナ、ヘンルウダ、ホ
 ツブ、ポドフェルム、ホルトサウ、マクワウリ、マダイワウ、マチン、マ
 ツ、マンサク、マワウ、ミカン、ミヅガシハ、ミルラ、ヤマノイモ、ユ
 ズ、ヨシ、リンダウ、レモン、ロクワイ、ワウレン、ワスレグサ、ワレモ
 カウ

一、疣及ビ魚ノ目

イチジク、イテウ、イボタノキ、エビヅル、キリ、サトイモ、スベリヒユ、ナ

ス、ニシキサウ、ハトムギ、ホ、ヅキ、ホルトサウ

一、陰痿、強壯

アカネ、アカザ、アマドコロ、イカリサウ、イスラントゴケ、ウコギ、カキ
 ドウシ、カキノハグサ、カシユウ、キナ、キムラタケ、クコ、クロゴマ、
 コケモモ、ゴシユユ、コノテガシハ、ゴマノハグサ、サネカヅラ、サホヒメ、
 サンシユユ、ジャカウサウ、セキシヤウ、ソテツ、タマネギ、ツリガネニンジ
 ン、トチバナニンジン、ナツメ、ナルコユリ、ナンテン、ニラ、ニンジン、
 ニンニク、ハウレンサウ、バナナ、ヒメハギ、ブクリヤウ、ブタウ、マツ、
 ムギ、ムベ、ヤマノイモ、ヤマブダウ、リンゴ

一、咽喉及ビ氣管支疾患

アヲツヅラフチ、アセンヤク、アンズ、クスノキ、クチナシ、クワリン、ゴ

マノハグサ、サネカツラ、サルヅイヤ、ゼニアフヒ、セネガ、ナンテン、バ
クチノキ、ハマスゲ、マンサク、ミヤマトベラ、ミルラ、ムクロジ、ヤツ
デ、ユスラウメ、ロベリヤ

一、壊血病

ハヒマツ

一、脚氣

アヲツヅラフヂ、アサガホ、アヅキ、イネ、カキ、クカイサウ、クサボケ、
ゴシユユ、サボテン、シユロ、スキクワ、スベリヒユ、ツユグサ、ナギナタ
カウジユ、ナツミカン、ヘチマ、ムギ、ヤマゴバウ

一、霍亂

ゴシユユ、サンセウ、タデ、ハクカ、ビハ、モモ

一、火傷、湯傷、凍傷

アラキ、アブラナ、アマ、カタバミサウ、カブラ、カラスウリ、キウリ、
キカラスウリ、キラシサウ、クスノキ、クチナシ、クワキ、コノテガシハ、
タウガラシ、テツボウユリ、トチノキ、トロロアフヒ、ニンジン、ハクカ

一、疳

カキドウシ、クコ、クサギ、ホホヅキ

一、間歇熱

アヂサキ、ニガヨモギ、ユウカリ

一、肝臓病

クコ、クサノワウ、タンボボ、トマト、ニンニク、フ랑格拉ジユ、ボドフ
キルム、レモン

一、眼病

アケビ、アマチヤノキ、カタバミサウ、カハラケツメイ、カラバルマメ、キハ
ダ、クサネム、クロゴマ、サイカチ、サネカヅラ、セキシヤウ、センブリ、
タウガラシ、タマネギ、チャ、ナンテン、ニラ、ニンニク、ネギ、バラ、
ペラドンナ、マワウ、メウガ、メギ、メグスリノキ

一、感冒諸症

アカネ、アギ、ウキキヤウ、ウメ、ヲケラ、カエブテ、カミツレ、キウ

リ、キキヤウ、キヅタ、キムラタケ、キンカン、クズ、クマツヅラ、ケイ
ガイ、コガネバナ、ゴシユユ、サイカチ、サツサフラス、サルヲカゼ、サル
トリイバラ、サンセウ、シソ、シヒタケ、シヤウガ、スヒカヅラ、センブ
リ、ダイダイ、タマネギ、ドクダミ、ニハトコ、ニラ、ニンニク、ネギ、
ノダケ、ハクカ、ハクモクレン、ヒマハリ、ビヤクブ、ヘチマ、ペニバナ、
ヘンルウダ、ホホヅキ、マワウ、マンネンロウ、ミカン、ムギ、ヤナギ、
ヤボランヂ、ユサウボク、ユズ、ヨシ、ヨモギ、ヨロヒグサ、レモン、ロ
ーマカミツレ

一、寄生虫驅除(縲虫其他)

アギ、イヌタデ、カマラ、カヤ、クツソ、クララ、クルミ、ケイガイ、
ザクロ、シナ、シクンシ、センダン、センブリ、ソバ、タチジャカウサウ、
テンダイウヤク、ニガキ、ニガヨモギ、ニンジン、ニンニク、ボウブラ、ホ
ホヅキ、マクリ、マツ、メンマ、ヤマジン、リヤウブ

一、花柳病（梅毒、痲病、消渴其他）

アケビ、アマ、イタドリ、イチハツ、キノコヅチ、ウツボグサ、ウワウル
 シ、エビスグサ、オトギリサウ、カタバミサウ、カニクサ、クハ、クルミ、
 コケモモ、コノテガシハ、コバイバ、ゴバウ、サツサフラス、サルヲカゼ、
 サルサ、サルトリイバラ、サルノコシカケ、サンザシ、ジュズダマ、スギ、
 スベリヒユ、ダンチク、チガヤ、ツバキ、テンダイウヤク、トクサ、ドクダミ、
 トロロアフビ、ネムノキ、ハウキグサ、ハクセン、ハブサウ、ハラシ、ハリ
 ビユ、ヒノキ、ビハ、ビヤクダン、ブクリヤウ、ホホヅキ、マタタビ、マ
 ツ、ミソハギ、ヤマゴバウ、ユサウボク、レンゲウ

一、下劑、吐劑

アサガホ、アスバラガス、アヅキ、イチハツ、エンゴサク、クロウメモドキ、

コロシントサウ、シワウ、スミレ、ダイワウ、タウゴマ、タカトウダイ、タ
 マリンド、タンボボ、トコン、ナツメ、ハウキグサ、ハヅ、ハブサウ、ハ
 マナス、ハンゲ、フラングラジュ、ホルトサウ、マクワウリ、マダイワウ、
 マンナ、ミヤマトベラ、モモ、ヤマアキ、ヤラバ、ロクワイ

一、解毒、下毒（咬毒、螫毒、酒毒其他）

アキ、アラキ、アカザ、アサガホ、アセビ、アヅキ、イケマ、イチハツ、
 イチヤクサウ、イヌタデ、キノコヅチ、カキ、キランサウ、クサノワウ、ク
 ズ、クソニンジン、クロゴマ、ゲツケイジュ、サクラ、ザゼンサウ、サトイ
 モ、サンシチサウ、サンセウ、シシウド、シヤウガ、ジヤガタライモ、スギ、
 スベリヒユ、タデ、テツボウユリ、ニハトコ、ヌルデ、ノイバラ、ハウレン
 サウ、ハコベ、ハブサウ、フキ、ヘンルウダ、ホウセンクワ、ボウブラ、
 メナモミ、ヤブタバコ、ユキノシタ、ワラビ

一、解熱(感冒、胃腸、肺其他)

アチサキ、イチゴ、ウマノスズグサ、オナモミ、オホバコ、カミツレ、カラ
スウリ、キウリ、ギシギシ、キナ、クコ、クサスギカヅラ、クサノヲウ、
クチナシ、クララ、コガネバナ、コクサギ、コセウ、サンセウ、シヒタケ、
シヤクヤク、スキバ、スギナ、スヒカヅラ、センダン、タチジヤカウサウ、
チモ、ツリガネニンジン、トチバナニンジン、ナツメ、ナンテン、ニガヨモギ、
ニンジン、ノイバラ、ノウゼンカヅラ、ハクモクレン、バセウ、バナナ、ホ
タン、ホホヅキ、ミシマサイコ、ユウカリ、ユキノシタ、ヨシ、ワウレン、
ワラビ

一、下痢止(赤痢其他)

アセシヤク、イタドリ、イチハツ、オキナグサ、ヲケラ、オホバコ、カキ、
カスカリラ、ギシギシ、キンミヅヒキ、クチナシ、ケイトウ、ケシ、ゲンノ

シヨウコ、ゴシユユ、ゴバウ、ザクロ、サツマイモ、サルトリイバラ、サン
セウ、サントウ、センブリ、タウコギ、タマネギ、ナハシログミ、ナンテン、
ニラ、ニンニク、スルデ、ネギ、ハウキグサ、ハクカ、ハトムギ、ヒキオ
コシ、マンサク、マノウ、ムクゲ

一、口中諸症

イチゴ、キハダ、クコ、クチナシ、ナス、ワウレン

一、興奮藥

カカオノキ、カスカリラ、クスノキ、コヒーノキ、タチジヤカウサウ、タニジ
ヤカウサウ、チャ、ハクカ、ヒヤクリカウ、ヒルガホ、マンネンロウ、ワリウ
ナウ、ワサビダイコン

一、催眠薬

アサ、ウメ、クコ、タマネギ、チサ、ニラ、ニンニク、ネギ、ラクチユカリウム

一、止血薬

イケマ、イチヤクサウ、オトギリサウ、キハダ、キムラタケ、クサスギカツラ、クチナシ、シユロ、センキウ、タウコギ、チガヤ、ツバキ、ニラ、ニンニク、スルデ、バクカクキン、ハス、ハマスゲ、ヒツジグサ、ヒツチヨウカ、ポウブラ、ボタン、マツ、マンサク

一、齒諸症

アカザ、アラメ、ウメ、コンブ、スキセン、ツバキ、ニウカウ、ネギ

一、ジブテリヤ

ハクカ、ハコベ、ハス、ヒジキ、フノリ、ヨモギ、ワカメ、クサノワウ、マダケ

一、シヤクリ

カキ

一、食傷

カリヤス、ヨモギ

一、神経諸症

アギ、アサ、アンズ、イカリサウ、トリカブト、ニンジン、バイケイサウ、
バクチノキ、ハルオミナヘシ、ベラドンナ、ヘンタウ、ホツブ、マチン、マ
ンネンロウ、ムクロジ、ユキノシタ、ラクチユカリウム、ワサビダイコン

一、心臓諸症

アカネ、アヅキ、アンズ、オホヒナノウスツボ、キナ、サルノコシカケ、シ
ヒタケ、スズラン、チキタリス、チャ、ツユグサ、ニンジン、ニンニク、
バクチムキ、フタジユサウ

一、腎臓、膀胱諸症

アラツヅラフヂ、アキノキリンサウ、アスバラガス、アヅキ、ウワウルシ、エ
ビスグサ、カキドウシ、カハラケツメイ、キササゲ、クコ、クサネム、ケイ
トウ、コケモモ、サルヲカゼ、スキタワ、タウモロコシ、チャ、トチバナニンジン、

ニハトコ、ニンジン、ハウキグサ、ビハ、メウガ、ヤマゴバウ、ヤラバ、
リンゴ

一、水腫、腸満

アラツヅラフヂ、アマチャノキ、オホバコ、オモダカ、カハラケツメイ、キフ
ヂ、クサネム、ゴシユユ、ゴバウ、スキタワ、タウガラシ、タウモロコシ、
タラノキ、チガヤ、トクサ、トロロアフヒ、ナギナタカウジユ、ニハトコ、ネ
ズミサシ、ハブサウ、ブクリヤウ、ヘチマ、ヤマゴバウ、リウゼツラン、ワ
サビダイコン

一、清血、補血薬

オチゴ、イチジク、ウマノスズグサ、オナモミ、カスカリラ、カラスウリ、
キカラスウリ、クサナシ、クルミ、ケイガイ、シソ、タウキ、タカトウダイ、

タマネギ、タンボボ、チサ、ニラ、ニンジン、ニンニク、ネギ、ハウレン
サウ、ブダウ、ベニバナ、ヤマブダウ、リンゴ

一、疝氣諸症

アンズ、ウド、オホバコ、キンシバイ、ゴシユユ、サイカチ、シシウド、タ
チジャカウサウ、タニジャカウサウ、テンダイウヤク、バクチノキ、ヒヤクリカ
ウ、マタタビ、ワレモカウ

一、瘡腫(癰、疔、漆瘡其他)

アキ、アラツヅラフチ、アヅキ、キノコヅチ、エノキ、オトギリサウ、オホ
バコ、カシユウ、カニクサ、キツネノボタン、キンラサウ、クサノワウ、クソ
ニンジン、クララ、クリンサウ、ケイガイ、ゲツケイジュ、ゲンノシヨウコ、
コセウサウ、コナスビ、ゴバウ、コンニヤクイモ、サボテン、サンザシ、シ

ウカイダウ、ジエンサイ、スキセン、スギ、スヒカヅラ、スベリヒユ、スミ
レ、ダイコンサウ、ダイフウシ、ダイワウ、タカトウダイ、タガラシ、ツハ
ブキ、ツメグサ、テツボウユリ、ドクダミ、トコン、トリカブト、トリモチ
ノキ、トロロアヒ、ネムノキ、ハコベ、ハヅ、ヒカゲノカヅラ、ヒガンバ
ナ、ヒヨドリジョウゴ、ヒレハリサウ、ベンケイサウ、マダイワウ、ミヤマト
ベラ、メハジキ、ユスラウメ、レンゲウ、ワウレン、ワレモカウ

一、打撲其他傷害

アマドコロ、イヌサンセウ、エンゴサク、オトギリサウ、キハダ、キラシサウ、
クチナシ、サンシチサウ、スギナ、テツボウユリ、トチノキ、ナルコユリ、
ニハトコ、ニラ、ネギ、ワレモカウ

一、丹毒

アブラナ、マメ、ミヅゴケ

一、痔疾

アキ、アカザ、イチジク、イヌザンセウ、ケイトウ、ゴシユユ、ドクダミ、ニンジン、ハウレンサウ

一、乳房諸症

イヌザンセウ、スキセン、タンポポ、トロロアフヒ、ナス、ハウキグサ、ハコベ、ワスレグサ

一、中毒

アキ、アブラナ、クララ、クルミ、クロゴマ、サクラ、サンザシ、サンセウ、シソ、ノイバラ、ハウキグサ、ハウセンクワ、ミカン、ミヤマトベラユズ、レモン

一、中風

アヲツヅラフヂ、サルノコシカケ、シシウド、テンダイウヤク、ナンテン、バウフウ、ハマバウフウマダタビ、マツ

一、鎮咳、祛痰（喘息、感冒、肺其他）

アヲツヅラフヂ、アギ、アサ、アンズ、アンソクカウ、アンモニアクム、イテウ、ウキヤウ、ウマノスズグサ、ウメ、カキ、カキノハグサ、カラスウリ、カラタチ、カンアフヒ、キカラスウリ、キキヤウ、キンカン、クコ、クワンザウ、ケシ、コガネバナ、コクサギ、ゴシユユ、サクラ、サネカヅラ、サルヲカゼ、シラン、シソ、セネガ、タウコギ、タンキリマメ、チガヤ、テウセンアサガホ、テンダイウヤク、トコン、トチバニンジン、トマト、ナツメ、ナハシログミ、ナンテン、ネズミサシ、ハイモ、バイモ、ハクカ、ハトムギ、ハماغゲ、ビハ、ヒメハギ、ヘンタウ、マツ、マワウ、マンナ、ミカン、ムクロジ、ヤツデ、ヤマシヤクヤク、ヤマノイモ、ユズ、ヨシ、ヨモギ

レモシ、ロベリヤ

一、傳染病

ウメ、ニンニク、ハクカ、ブナ

一、糖尿病

アマ、クルミ、タラノキ、トチバナニンジン、ニンジン、フヂヤシ、ユウカリ

一、刺拔

ツテツ、ソバ、ニシシギ、ホウセンクワ

一、脳病（頭痛其他）

アケビ、ウド、ヲケラ、カサモチ、クチナシ、シソ、センキウ、チモ、ノ
ダケ、ハクカ、バセウ、バナナ、ハブサウ、ヘチマ、ボタン、マツ、ヨ
モギ、ヨロヒグサ

一、肺、肋膜諸症

アンズ、イチヤクサウ、エブリコ、カキドウシ、キキヤウ、クコ、クサスギカ
ヅラ、クスノキ、クワリン、コガネバナ、サホヒメ、サルヲカゼ、シラン、
タマネギ、チモ、ツリガネニンジン、ニラ、ニンジン、ニンニク、ネギ、
バイモ、ハクカ、バクカクキン、バクチノキ、ハトムギ、ハラシ、ヒソツ
ブ、ビヤクブ、ブナ、ヤツデ、ヤハヅツノマタ、ヤマゴボウ

一、破傷風

カサモチ、シシウド

一、鼻諸症

クチナシ、シユロ、センキウ、ニラ

一、皮膚病(疥癬其他)

アセビ、アブラナ、アヤメ、イタドリ、イネ、オシロイバナ、オニシバリ、カエブテ、カタバミサウ、カヘデ、キウリ、キカラスウリ、ギシギシ、キツネノボタン、キハダ、クサギ、クサノワウ、クズ、ゲツケイジユ、コセウサウ、サイカチ、サイハイラン、シウカイダウ、シヤウガ、シユンラン、シラシ、スキバ、センダン、ソガウカウ、ダイフウシ、ダイワウ、タカトウダイ、タチジャカウサウ、ドクダミ、ナルコユリ、ヌルデ、ネズミサシ、ハトムギ、ヒノキ、ヒヨドリジョウゴ、ブナ、ヘクソカブラ、ペルバルサム、ペンケイサウ、マダイワウ、マユミ、マンネンロウ、ミイロスマレ、モモ、ヤナギ、ヤブラン

一、百日咳

オホバコ、カタバミサウ、ダイコン、ボウブラ、ホホヅキ、ヤツデ

一、婦人病

アカネ、アギ、アケビ、アンズ、イタドリ、キノコヅチ、イハタバコ、ウツボグサ、ウマノスズグサ、ウワウルシ、エノキ、エビスグサ、エンゴサク、オキナグサ、オランダセリ、カラスウリ、キカラスウリ、キムラタケ、クハ、クマツヅラ、クララ、ケイガイ、ゲンノシヨウコ、コノテガシハ、サイカチ、ザクロ、サフラン、サホヒメ、サンザシ、サンシユユ、ジヤカウサウ、シヤクヤク、センキウ、ソテツ、タウキ、タカトウダイ、チガヤ、ニンジン、ニンジンボク、ノウゼンカウラ、ノダケ、バイモ、バクカクキン、ハコネシダ、ハコベ、ハトムギ、ハブサウ、ハマスダ、ハリビユ、ハルオミナヘシ、ハンゲ、ヒツチヨウカ、ビヤウヤナギ、ベニバナ、ヘンルウダ、ホウセンクワ

ホタン、ホホヅキ、ホルトサウ、ミルラ、メハジキ、ヤマアキ、ヨロヒグサ、レンダウ

一、耳諸症

オトギリサウ、サンシユユ、ユキノシタ、

一、盲腸炎

ハコベ、ハブサウ

一、毛髮藥

カサモチ、キリ、クコ、クハ、クリ、サネカヅラ、チャ

一、腰痛、脚痛、膝痛

アマドコロ、キノコヅラ、カサモチ、シヤクヤク、ゼンマイ、ナルコユリ、
ホタン、ヨモギ

一、癩病

ダイフウシ

一、利尿、遺尿

アラツヅラフヂ、アカネ、アキノキリンサウ、アマチヤノキ、イケマ、オホバ
コ、オモダカ、カインウ、カハラケツメイ、カラスウリ、キカラスウリ、キ
ササゲ、キフヂ、クカイサウ、クサスギカヅラ、クサネム、ケイトウ、コケ
モモ、コノテゴシハ、サツサフラス、サルヲカゼ、サルトリイバラ、サンザ

シ、シウカイダウ、シソ、スキクハ、スベリヒユ、セندگان、タウコギ、
ダンチク、チガヤ、チヤ、トクサ、ドクダミ、トマト、ナギナタカウジユ、
ニハトコ、ニンジンボク、ネギ、ネズミサシ、ノイバラ、ハクセン、ハトム
ギ、ハマナス、ヒノキ、ビハ、ヒルガホ、ビンラウジ、ブクリヤウ、フ
チ、ヘチマ、ミシマサイコ、ムギ、ヤボランヂ、ヤマゴバウ、ヤラバ、ユ
サウボク、ワサビダイコン

一、リユウマチス、神経痛、痛風

アラツヅラフチ、アルニカ、オトギリサウ、オニシバリ、カエブテ、カミツ
レ、カラシナ、カラバルマメ、ギシギシ、キツネノボタン、キツネノマゴ、
キランサウ、クカイサウ、クサボケ、クスノキ、ケシ、ゲツケイジユ、コル
ヒクム、サイカチ、サツサフラス、サルトリイバラ、サルノコシカケ、スキ
バ、タウガラシ、タガラシ、ツユグサ、テリハボク、テンナンシヤウ、トキ
ンサウ、トリカブト、ニハトコ、ニンジン、ハウレンサウ、ハクカ、ハヅ、

ヒヨス、マチン、マツ、マンネンロウ、ヤツデ、ヤナギ、ユサウボク、ユ
ズ、ヨモギ、ラヴエンデル、ラクチユカリウム、ワサビダイコン

一、瘰癧

ウツボグサ、オホヒナノウスツボ、クワリン、ゴマノハグサ、シユスラン、チ
ンチャウゲ、バイモ

一、黄疽

ウメ、カハラヨモギ、クチナシ、クログワキ、チガヤ、ニガヨモギ、ハクセ
ン、ポドフェルム、ヤナギ

九州薬用植物研究会編

ア

本邦産の藍は天竺山草科の植物に属する。其の根は地下に横根を張り、葉は互生し、葉柄の基部に膜質の托葉ありて莖を包むこと一般蓼科の植物と異なる所なし、十月頃紅色の小穂状花を綴り光澤ある赭褐色の三稜果を結ぶ、葉はインヂコチンと稱する色素を含み藍玉の材料となり又之を薬用に供す、筑後地方の重要物産たる久留米耕は實に此正藍を染織したるものなり。

一、アキ (タデ科) 藍 原産地は我國及び支那等にして我國に於ける栽培の起源は遠く上古に遡る、通常畑地に培植せらるゝ一年生草木にして莖高さ二三尺に達し概形蕎麥に似たれども莖彼の如く柔軟ならず、葉は楕圓形又は卵圓形にして互生し、葉柄の基部に膜質の托葉ありて莖を包むこと一般蓼科の植物と異なる所なし、十月頃紅色の小穂状花を綴り光澤ある赭褐色の三稜果を結ぶ、葉はインヂコチンと稱する色素を含み藍玉の材料となり又之を薬用に供す、筑後地方の重要物産たる久留米耕は實に此正藍を染織したるものなり。

建釜に浸すも可なり又揉葉を火に焙り腫物の頭部に貼付して數回之を繰返すときは終に凝を解くに至る尙葉の煎汁を以て腰湯を爲し屢患部を洗へば大抵の痔疾を癒すと言ふ、藍に因縁ある筑後地方に於ては古來民間療法として實行し來れる所なり。

一、アヲキ (サンシユユ科) 桃葉珊瑚 一名アヲキバと言ふ、山地に生ずる常緑の灌木なれども時に觀賞植物として園養せらるゝことあり、葉は長楕圓形にして先端尖り、縁邊に大なる鋸齒ありて長さ五六寸に及ぶ對生なり、花は淡紫色の四瓣花にして春末開花し、花後長楕圓形の果實を結び、冬季熟すれば紅色を呈す、雌雄異株なるが故に孰れか其一方のみにては結實せず、葉の成分はアウクビンなり之を藥用に供す。

本植物の葉を天日に干したるものに油を和し火傷、湯傷及び凍傷の患部に塗布すれば治すること妙なり、乾葉なき場合には生葉の搾汁を塗布するも同様の效能あり、又體内の毒下に葉を刻み同量の忍冬と共に煎用す一日の用量一匁半乃至二匁半にして毎食間に内服す。

一、アラツツラフチ (ツツラフチ科基本植物) 木防己 一名ツツラフチとも言ふ、原野路傍に普通なる蔓性の多年生草木にして、莖は綠色木質なり、葉は心臟形又は卵圓形

にして互生す、夏日葉腋に淡綠色小形の總狀花を綴る、雌雄異株なり、花後碧黑色の球果を結ぶ、蔓を以てツツラ、カゴ等を作る、因て此名あり 秋彼岸頃根莖を採取乾燥し藥用として貯藏す。

本植物の根及び莖にはシノメニンを含有し之に甘草を加へ煎用すればリュウマチスの鎮痛藥として特效あり又利尿藥として脚氣、水腫、痛風、膀胱炎、ヨウ、テウ等に特效あり、一日の用量大人一匁半乃至三匁毎食後に分服す。

一、アカザ (アカザ科基本植物) 藜 原野に普通なる一年生草本にして莖高さ六七尺に達するものあり、葉は概して卵形にして質軟く、灰白色の鱗毛を密生す、初夏稍上葉腋に黃綠色の小花を綴る、若き葉を食用に供し老ひたる葉を杖となすことあり、古文學に出でたる藜の杖と言ふは即此植物なり。

本植物の葉を煎用し或は生葉を塗布すれば毒虫の螫傷を治し又齒痛に滴下すれば痛を止むと言ふ又嫩葉はハウレンソウと同じく滋養藥となり、酒毒を消し、緩下藥として痔疾に内用す、ハウレンソウの部參照せらるべし。

一、アカネ (アカネ科基本植物) 茜草 山野路傍等に普通なる蔓性の多年生草木にして、莖は方莖にして中空なり葉は長卵形にして先端尖り節毎に四個宛輪生し莖と共に刺毛を密生す、初秋梢葉腋より花梗を抽ぎ白色五瓣の小花を綴る、花後黒色の肉實果を結び根は黄赤色を呈す、往時は此根をアカネゾメの染料に供したることあり、根を薬用とす有効成分はルベリトリン酸なり。

秋彼岸頃根を採取し其生根を卸して砂糖に和し用うるか或は細割して乾燥したるものを浸劑にするか或は同上乾根を煎用すれば發汗薬として感冒に能く、又利尿薬として心臟病に能し、用量一日一匁半乃至三匁を毎食前に分服す、其他本種子三匁に甘草一匁半を加へ一合半に煎じ詰めたるものは通經薬として特效ありと言ふ。

一、アギ (サンケイ科) 阿魏 西藏、波斯其他西部亞細亞に生ずる多年生草本にして、莖高さ三四尺に及ぶ、多肉性の根部を有し、根葉は巨大にして數回掌狀複葉なり、最初は根葉のみなるが大凡五年間を経過したる後莖を生ず莖端に複繖形花序を爲して小形の黄色花を綴る、果實は扁平なり。

莖を傷け浸出したる乳液を乾燥凝固せしめたるものを阿魏と稱し薬用に供す、主成分は揮

發油、樹脂、ワニルリン、阿魏酸等を含有し、主としてヒステリド、其他の婦人病、瘧疾、驅風、祛痰、驅虫薬等に應用す、日本薬局方の製劑は阿魏丁幾なりとす、一日數回一瓦乃至三瓦を極度として用う。

一、アキノキリンサウ (キク科) 一名アハダチサウとも稱す、山野に生ずる莖高さ二三尺の多年生草本にして、葉は卵狀楕圓形、莖質細けれど強く紫黑色を呈す、九月頃梢上に黄色の小頭狀花を綴る。

開花時に全草を採取し陰干とす、花莖を乾燥したるものは古來腎臟病、膀胱病等を治するに用う、一日分の用量は二匁乃至五匁にして數回に分服すと聞く。

一、アケビ (アケビ科基本植物) 通草 木通 山野に自生する常緑の蔓性灌木にして、葉は五小葉より成る掌狀複葉なり、果實の甘味なる点に於て能く人の知る所なり。

枝莖を陰干煎用すれば頭痛、通經に效あり又利尿薬として淋病にも效あり其他樹皮を細切し多量の水にて煎じ數々洗へば突目に能し、内服の用量四匁乃至六匁水二合を一合に煎出して一日三回食前に分服すべし。

一、アサ (クハ科) 大麻 大なる掌状複葉を有する雌雄異株の一年生作物にして、莖高さ六尺以上に及び、成長期短く栽培も亦容易なり、我國に於ては神代より栽培せられ、衣服、蚊帳、糸、綱等の材料となり又種子は香料となり或は油を搾り、工業上頗重用せらる。

日本薬局方の採用する所にして諸般の疾病に應用せらる、尤も藥用に供するものは坊間印度大麻と稱して販賣せらる、即果實の成熟初期に採取したる雌花を有するもの、みに限られ、少しく臭氣ある揮發油にして麻醉力ある成分は樹脂とす、主として鎮靜藥及び催眠藥として内用すれども又外用として燻烟藥及び紙卷煙草として喘息を治するに使用せらる。又民間療法として麻實四合と水六合とを猛火にて煮沸し七勺に煎じ詰めたるものを空服時に服用すればテンカンを治する效ありと言ふ。

一、アサガホ (ヒルガホ科) 牽牛、朝顔 觀賞植物としてのアサガホは同時に又藥用植物なり、即アサガホの種子は、コンウオルウリンと稱する樹脂を含有するが故に之を天日に乾燥搗碎き煎用するか或は粉末を白湯にて内服すれば緩下藥として便秘或は脚氣に

效あり又葉は毒虫の咬刺傷に塗布して效あり、内用量は一日〇、五乃至一、五瓦とす。

一、アセビ (シヤクナゲ科) 馬醉木、侵木 一名アセモ又はアセミとも言ふ、山野に自生する常緑の灌木なれども樹姿風致あるが故に園培して賞用せらる、葉は卵圓形にして細長く縁邊に鋸齒を有す、早春葉腋に白色小形の壺狀花を房狀に綴る、葉に劇毒あり馬若し誤て之を食すれば昏醉すと言ふ馬醉木の名ある所以なり、筑後地方に於ては之をヨシミと方言し莖葉を煎じて大根其他蔬菜の害虫驅除に使用す。葉を乾燥細割して可成濃く煎じ患部を洗へばカイセン其他の皮膚病に能く、毛虱を退治し毒蛇毒虫の咬傷整傷を癒し及び便所に投入して蛆の發生を防ぐ效あり若し生葉あるときは其揉汁を度々塗布するも可なり。

一、アセンヤク (マメ科、アカネ科) 阿仙藥 印度、南洋諸島等の熱帯及び亞熱帯地方に原産する木本にして之に二種あり、即一は荳科に屬するアカシヤアセンヤクにして、他の一は茜草科に屬するカンピールアセンヤクなり。荳科のアセンヤクは常緑の喬木にして概形アラビヤゴムに似たり、幹高さ四丈内外に至る

ものあり、葉は二回羽狀複葉にして多數の小葉より成る、花は黄色にして莢果を結び數個の種子を含有す、木心を細切し水を加へて煎稠し後之を日光に晒したるものを阿仙藥と稱し褐色の大塊なり、本種はペグに於て製造するが故にペグ阿仙藥とも言ふ、味頗収斂性にして後稍甘味あり専ら含喇劑となし又クローム銅等に加へて褐色或は黒色の染料を製す。茜草科の阿仙藥は常緑の灌木にして、葉は楕圓形又は長卵形先端尖り葉柄短く對生せり花は小形にして淡紅色なり、鞣酸質に富むが故に葉及び稚枝の煎汁を乾燥して阿仙藥となし収斂藥及び鞣皮用に供す、下痢止の公認藥なり、製劑に阿仙藥丁幾あり、一日數回一瓦乃至三五瓦又は十五乃至三十滴極度とす。

一、アスバラガス (ユリ科) 石刀柏 一名マツバウドとも言ふ、南部歐洲の原産にして明治維新以後我國に栽培せらるゝ多年生草本なり、葉細くして松葉に似たるが故に此名あり、夏日白色の小花を開き秋に至り小にして美なる圓形果を結ぶ、赤色なり、嫩莖は滋養分多く西洋料理に用ゐらる。嫩莖を煮食すれば緩下藥となり又腎臟炎に特效あり、用量適宜とす。

一、アチサキ (ユキノシタ科) 紫陽花 落葉の小灌木なり、通常山地に自生すれども時に觀賞用として園養せらる、葉は楕圓形にして鋸齒あり對生なり、七八月頃淡紫色の美花を圓形に綴る。

花を陰干とし煎用すれば解熱藥となり又葉を陰干して煎用すれば特にオコリの病に效ありと言ふ、内用量は一日二匁又は三匁毎食前に分服す。

一、アツキ (マメ科) 小豆 世人の周知せらるゝ食品なり。

種實は利尿及び緩下藥として脚氣、心臟病、腎臟病等に用ゐる又瘡腫蝨毒等に用う其分量は一日一合半乃至二合とし瘡腫等には生葉の揉汁を貼付す。

一、アブラナ (ジウジクツ科) 薺、油菜 種油を採る爲め各地に栽培せらるる二年生草本にして一名ナタネナとも言ふ。

葉及び莖を揉み潰して塗布すれば丹毒に效あり、種子を粉末にし白湯に溶きぬるまとなりたる頃凡そ一匁を内服するとき嘔吐を催して魚類の中毒を消す、其際可成多量の湯を用うれば嘔吐を速かならしむ、又種子より採りたる油を火傷、湯傷、ヒビ、アカギレに塗布

して效あり或は小兒の便秘に油をコヨリに塗り挿薬となしても效あり。

一〇

一、アマ (アマ科基本植物) 亞麻 埃及、メソポタミヤ地方の原産にして我國に於ては北海道に盛に栽培する一年生草本なり、莖は細く高さ三四尺に至る、葉は披針形にして線状を爲し互生す、夏日青色又は白色の五瓣ある繖形花を綴る、果實は蒴果にして十個の種子を包藏す、莖皮より纖維を採りて織物の原料となし、種子より油を搾りて所謂亞麻仁油を造り工業、食料、薬用等に供す、用途頗多し、日本薬局方に於ても之を認め瀉腸料及び擦劑として火傷に用う。民間薬として種子を煎用すれば糖尿病、麻病に效ありと一般に稱せらる。

一、アマチャノキ (ユキノシタ科) 土常山 陰曆四月八日の釋迦誕生日灌佛會に用うるを以て知らる、落葉の灌木にして、山野に自生品あれども又庭園に培植せらる、全形アヂサキに似て稍小に開花も畧同時期なり、夏日二様の花を開く、内部の花は小形にして萼なく外部の花は大形の萼あり、萼は初め青色なれども後紅色に變ず、嫩芽嫩葉を煤でて食用とし又新葉を揉みて綠汁を除き乾し貯へて甘茶を製し又醬油の甘味料となす、葉を薬用

に供す甘味の成分はヅルチンなりとす。

昔時は萬病の薬として貴重せられたり、乾葉を煎用すれば利尿薬として水腫諸症に效あり、分量は一日二匁半乃至四匁毎食前に分服す、又煎汁を濾して臥床の際点眼すればヤニ目、カスミ目、シブリ目等に能く又甘草の代用品として他薬に配伍し種々の薬用に供す。

一、アマドコロ (ユリ科) 山麓樹蔭に生ずる多年生草本にして一尺内外の莖を斜に地上に抽ぎ、楕圓形又は卵形の葉を互生す、莖は暗紫色を帯び鈍方形なり、初夏葉腋より一花梗を出し往々二三に分岐することあり、白色にして先端淡綠色を帯べる小形の筒状花を垂る、其様風鈴に似たり、花後黒色豆大の果實を結ぶ、地下莖は横に生長して肥大なり。

地下の根莖を薬用に供す、即根莖を卸して打撲傷に外用し又腰部、脚部等の痛所に塗布して效あり或は之を細切乾燥煎用すれば強壯薬となる漢方に於ては之を人參の代用品とせり、内服一日二匁又は三匁を適量とす。

一、アヤマ (イチハツ科) 觀賞植物として人の周知せらる、草本なり。

一一

根莖を粉末とし之に油を和して患部に塗ればカイセン其他皮膚病に效あり。

一、アラビヤゴムノキ (マメ科) 亞弗利加ナイル河上城地方に産する落葉の喬木にして高さ二丈餘に及ぶ、葉は二回羽狀複葉にして各小葉は披針形細長ネムノキの葉に似たり、葉柄の側に下向せる黒色大形の刺あり、夏日梢上葉腋に黄色の小花を綴る、莢果を結び數個の種子を含む。

幹より自然に滲出するか或は之を傷けて滲出せしめたる飴の如き樹脂をアラビヤゴムと稱し徐々水に溶解して濃厚なる粘漿液となれるものをゴム漿と稱す主成分はアラビン酸のカルシウム鹽より成る、石版、凸版、寫真版、顔料の調製等工業上用途頗廣きのみならず藥學上に於ても需要甚多きものなり。

日本藥局方に於ては右ゴム漿の外ゴム散、丸劑、錠劑、乳劑、等の佐使藥として用ゐ、消化器管の加答兒性疾患に包攝藥として用う、其他醫療機械、化學上の器具等に用途多し。

一、アラメ (コンブ科) 荒布、黒菜、海藻類は多量のヨード、カルシウム其他の成分を含む爲めならん、全草を食用して齒牙を強壯ならしむるもの鈔からず本書には四五種

を掲げたり、アラメも亦其一なり。

一、アルテア (アフトヒ科) 和名ウスベニアフトヒとも言ふ、歐洲及び北部亞細亞に産する多年生草本にして、葉は卵形又は心臟形にして往々三裂す、莖葉共に粗毛あり、花は大形にして淡紅色なり。

生後大凡二年生にして未だ木化せざる根及び枝根を共に採取し、帶黄灰色の外皮と纖維根とを除去したるものを、アルテア根と稱し藥用に供す、主成分は、粘液の外、アスバラギン、澱粉、糖分等にして、胃腸の刺戟を緩和せしむる爲の粘滑藥として胃腸加答兒に應用し其一分を十分の冷浸煎劑となす。

一、アンズ (イバラ科) 杏 一名カラモモとも稱す、概形梅に似たれども花は之より後れて咲き、色淡紅にして美なり、六月頃梅の實に似て之よりも大なる果實を結ぶ黄赤色にして赤褐の斑点あり、我國、支那、高加索半島を其原産地となす、種子を杏仁と言ふ、主成分はアミグダリンと多量の脂肪油なりとす。

種子即ち仁より採りたる杏仁水は日本藥局方第二版以來苦扁桃水の代用品として収載せら

れ、其第四版に於て苦扁桃水を削除したるに因り、益々重用せらるゝに至り、鎮極及び鎮咳薬として、呼吸器炎症、心臟諸症、肺結核、疝痛、舞蹈病、ヒステリー等に一回十滴乃至二十滴即ち半瓦乃至一瓦を單味或は合劑として應用す。

一、アンソクカウ (アンソクカウ科基本植物) 安息香 シヤム、スマトラ、ジャア

等に産する落葉喬木なり、稚枝には褐色の絨毛を密生し、葉は卵形にして互生し、先端尖り縁邊に鋸齒あり、夏日梢上に帶赤色の總狀花を綴り深く五裂せり、果實は圓球狀を呈せる閉果なり。

幹を傷け浸出したる樹脂を乾燥したるものを安息香と稱し薬用に供す、シヤム安息香を上等品としスマトラ安息香を下等品とす、成分は主として無晶形の樹脂及び安息香酸なれども其他多少のワニルリンを含有す、祛痰薬として使用することあれども多くは香粧品製造に重用す、日本薬局方の製品は安息香丁幾にして安息香酸を製するに用う、安息香散は防腐性頗甚大にして其殺菌力は石炭酸及びサリチール酸に勝る、内服には健胃薬、祛痰薬に〇、〇五乃至〇、五瓦を用ゐ或は防腐薬として胃中の異常醱酵に用う、多服すれば嘔氣、耳鳴、頭痛、眩暈等を來すことサリチール酸に同じ、又防腐薬に外用し軟膏等として應用

せらる。

一、アンモニアクム (サンケイ科) ペルシヤ地方原産の多年生草本なり、莖高さ七

八尺に及び、中空にして節を有し外面に縦線あり、葉は羽狀複葉にして莖の下部に生じ、花は小形にして白色圓狀の繖形花を綴る。

幹莖より浸出せる乳様の樹脂を、アンモニアクムと稱し薬用に供す、特異の臭氣を有し味苦く辛烈にして芳香性なり、稀に祛痰薬として内用することあれども普通は刺戟性の硬膏として用ゐ、又コカイン製造の原料に供す、日本薬局方の製品は複鉛硬膏なり、内用の分量は一日〇、五乃至一、〇瓦なりとす。

イ、キ

一、イカリサウ (メギ科) 淫羊藿 林野に生ずる多年生草本にして莖高さ一尺内外

葉は卵形にして刺様の細毛を有し、三回三出の複葉なり、晩春より初夏に亘り、直經七八分の鐘状の花を三五個莖の近く開く、花色は小豆色なるを常とし、往々白色、淡黄、淡青色のものあり。

根部を陰干煎用すれば強壯薬として陰痿を治し又莖葉を陰干煎用すれば四肢痙攣神經衰弱症に效あり、一日分の用量は一匁乃至四匁、之に水二合を混じて一合に煎出し三回に分服するを可とすと言ふ。

一、イケマ (ガガイモ科) 生馬、牛皮消、白兔藿 山野竹林等に生ずる多年生の蔓性草本なり、葉は心臟形にして對生す、夏日葉腋より小莖を抽ぐこと二三寸にして白色五瓣の小繖形花を綴る、蒴果を結び白絮毛を有する種子を包藏し、秋日自ら裂けて右の白絮を飛散す、根を薬用に供す。

根は馬の病を治する特效あり生馬の名蓋し此に出るなるべし、又生根の搾汁を服用し或は陰干根を煎用すれば利尿、解毒、消化、吐血等に效ありと言ふ、用量一日一匁位とす。

一、イスランドゴケ (ウメノキゴケ科) 乙斯蘭土苔、依蘭苔 一名エーランタイと

も言ふ、寒帯地方に於ては海岸に又温帯地方に在りては高山に産する地衣類にして體は灰白色にして少しく綠色を帯び、扁平にして枝を分ち各枝の縁邊に毛状突起あり、歐洲北部諸國に於ては古代既に饑凶の際之を食用したることありしが第十六世紀に至り丁抹に於て初めて醫藥上に應用したり、其所在頗廣く獨逸、瑞西北部、西班牙等の山地に多生すれども最初に發見せられて此名を得たるイスランド即ち氷洲よりは今や輸出品なし、別種コバノイスランドゴケ一名コバノエーランタイは我國の白山、御岳其他諸方の高山地衣帯に産出し高さ一二寸全體叢生し扁平にして質硬く褐色を呈し岩石或は土砂に附著す、以上植物學上に於ては兩種の區別あれども醫藥學上に於ては之を同一視す。

本種はツエトラール酸及びリヘステリン酸の二結晶性酸を含み、日本藥局方に於ては苦味性健胃薬として本品十瓦乃至十五瓦を水百五十瓦の煎劑となし應用す又民間に在りては貴重なる滋養強壯薬として賞用せらる。

一、イタドリ (タデ科) 虎杖 原野に生ずる草本にして莖高さ二三尺より六七尺に及ぶものあり、葉は圓くして中空なり、夏日葉腋に紅を帯べる白質の小花を綴る、莖は酸味を有しスツバグサと稱して山家の小兒等の間食となる、根を薬用に供し主成分はポリゴ

ニン、エモチン等にして秋彼岸頃採取す。
根を煎用すれば健胃、瀉下、痲病、通經に特效あり之を粉末にし白湯にて服用するも亦同
效あり又生根を摺り酢を和して布に包み數回其汁液を塗布すればシラクモを必治すと言ふ
一日の内用量は健胃に一匁乃至二匁、瀉下に四匁乃至八匁、通經痲病に二匁或は三匁より
始め漸次増量するを可とし何れの場合にも毎食後三十分に分服すべしと言ふ。

一、イチゴ (イバラ科) 莓、イチゴには二十内外の種類あり、我國産にして高山に
生ずるもの、普通の山地に生ずるもの、原野に生ずるもの、暖地の海岸に生ずるもの又外
國産のものにオランダイチゴ其他一種あり、種類を異にするに従ひ或は灌木あり亞灌木あ
り草本あり、或は花色白、黄、紅、淡紫あり、或は開花時期春、夏、初秋あり、或は果色
黄、紅、淡黄、淡紅、黄赤、深赤、黒ありと雖ども唯一種原野路傍に多きヘビイチゴ即クチ
ナハイチゴの果實が有毒なる外總て生食に適し殊に大多數は美味なり、果實の成分は糖分
の外林檎酸枸橼酸等にして之よりジャム或は酒を造り又オランダイチゴ、キイチゴ等を主
として薬用に供し毒舍利別を製す。
莓を生食すれば清血、補血又解熱薬として效能多し或は清涼薬として毒舍利別に略同量の

枸橼酸を加へ適宜多量の水に和して口渴を止め、食慾を増進せしめ又緩下薬として小兒の
便秘に應用する人あり。

一、イチジク (クハ科) 無花果 地中海沿岸の原産にして我國に栽培せらるゝに至
りしは寛永年間南洋より傳來長崎に移植したるを初となすもの、如し、近時挿木として栽
培する人多し、枝葉を切れば白色の乳液を出し、花は擬花内に隠れ外見花なきが如し故に
無花果と言ふ、果實は秋季成熟す味頗る甘美なるが故に食品として世間に賞用せらる。
デアスターゼ、糖分、ゴム質等を含有す。
果實を生食すれば清血薬として效能多く又果實を生食し若しくは葉を煎用すれば痔疾にも
效あり殊に葉を其儘或は乾燥し一抔の水に三枚位の比にて腰湯すれば大抵の痔疾には充分
なり。
尙枝葉より出る乳液をイボの局部に塗れば數回にして之を落す編者も實驗者の一人なり。

一、イチハツ (イチハツ科) 基本植物) 鳶尾 初夏淡紫青色に所々紫色の小点を有す
る花を開き又は白色の花を開く觀賞植物にして高さ一尺餘に達し葉は短く廣く劍狀を爲

す。
本植物より採取したるイリス根は日本薬局方の認むる所にして廣く藥店に販賣せられ矯臭
撒布藥として應用せられ又粉粧藥として使用せらるゝものなり。
民間に於ては地下莖を煎用して下痢を止め且吐藥として應用す、尙之を花柳病の下毒に煎
用する人あり、一回の分量は普通の湯吞一杯又は飯茶碗一杯位なりと聞く。

一、イチャクサウ (イチャクサウ科基本植物) 鹿蹄草、一藥草 山林樹蔭の稍濕地
に自生する莖高さ五六寸の草本なり、葉は根出葉にして形團扇の如く革質にして光澤あり
初夏花莖を抽くこと五六寸白色五瓣の花に似たる小花を綴る。
古來肺患に有效なりと稱せられしも其効果は判明せず然れども蛇蝮其他の毒虫に咬まれた
るとき生葉を其儘又は塩にて揉み塗布すれば奇效あり且切傷其他瘡傷の止血止痛としても
效あり。

一、イテフ (イテフ科基本植物) 銀杏、公孫樹 支那の原産にして現時我國及び支
那の一部にのみ殘存せる世界的名木なり。

果實を焼きて便宜食すれば痰を去ること妙なり又葉を黒燒にして飯粒と練り局部に貼れば
魚ノ目を取去る魚目除去藥としては本品と後掲ナスと只二種あるのみと聞く、内用量は一
回十顆乃至十五顆を適當とす過食すれば胃腸を損する虞あり是多量の脂肪と蛋白質とを含
有せるが爲なり。

一、イヌサンセウ (ヘンルウダ科) 崖椒、原野河畔等に自生多き落葉灌木なり、概
形サンセウに似たれどもサンセウの如く佳香なく却て惡臭を有し又サンセウは春開花すれ
ども本種は夏開花し又本種の刺は不規則なる差あり。
果實を粉末にしたるものを酢に溶き塗布すれば乳房の痛を治し打身を癒す又根の煎汁にて
罨法すれば痔疾に效あり。

一、イヌタデ (タデ科) 馬蓼 原野路傍に普通なる一年生草本にして莖高さ一二尺
に達し披針狀の葉を互生す、初夏より梢上一寸内外の花梗を出し、紅色にして稍白色を交
ゆる五瓣の小穂狀花を綴る、辛味なし。
莖葉を煎用すれば蛔虫を驅除し且諸毒を下す效あり用量一日二匁乃至四匁

一、イネ (カホン科) 稻 此に説明せんとするは米糠の事なり米糠にはヅキタミン B 及びオリザニンを含有す。
 米糠を熬りて味噌汁に入れ又は熬糠に砂糖を加へ糖煎として毎日食用すれば脚氣に特效あり、用量は一回四匁或は五匁とす尙糠より採りたる油を塗れば二三回にして疥癬、水虫を治すと云ふ。

一、キノコツチ (ヒユ科) 牛膝 一名フシダカと稱し原野路傍に自生する多年生草本にして春夏の候盛に繁茂す、莖高さ二尺に達し方形にして高く稍赤色を帯ぶ、葉は楕圓形鋭尖にして對生す夏日莖頂葉腋に緑色の穗狀小花を綴る、花後刺ある小實を結び、衣服に著き易し、筑後地方の方言にモンビリと稱するもの之なり。

地下莖を煎用すれば月經不順、膝痛を治し又血癖、ヨウ其他悪性の腫物に特效あり尙蝮其他毒虫に咬れたるとき莖葉の煎汁を塗布すれば解毒すること奇妙なるものあり、内服量一日二匁乃至四匁毎食前に分服するを適量とす。

一、イハタバコ (イハタバコ科基本植物) 苦苣苔 一、イハヂサと稱し山中溼濕の地の岩上等に自生する草本にして根出葉は煙草に似て葉縁に鋸齒を有し根はシダの根に似たり、七八月頃淡紫色の美花を開く、一莖一葉なるを特色とす、觀賞植物となすに足る、全草を陰干にして煎用す、胃腸病、婦人病一切の特效薬として民間に重用せらるるものなり、一日の用量一匁半乃至三匁位毎食後に分服す。

一、イボタノキ (モクセイ科) 水蠟樹 山野に自生多き灌木にして高さ一丈餘に達するものあり、落葉樹なれども落葉の時期遅きが故に常緑樹の觀あり、葉は長楕圓形にして對生す、初夏梢上に白色の小花を開き黒色の果實を結ぶ、薬店に販賣するイボタノキは本植物に寄生する小虫の爲め幹枝に生したる紛狀物より採りたるものにして器物の艶を出し戸障子等の開閉を滑かにする爲に使用する外薬用にも供することあり、即イボタノキを熱しイボの根を堅く縛りて其上に滴下すればイボは消滅するものなり又之を肺病の治療に用うる人あれども其實健胃の效あるに過ぎず、健胃には同蠟一日一瓦又は二瓦位を白湯にて用う。

ウ

一、ウキキヤウ (サンケイ科) 茴香 地中海沿岸地方の原産なれども今は我國各地に栽培せらるゝ多年生草本なり、莖高さ六七尺に達し莖葉共に一種の香氣あり、夏日黄色五瓣の繖形花を綴る。果實を茴香と稱しアネトール其他の成分を有する揮發油を含有す茴香油即是なり、日本藥局方の採用公認する藥品なりとす。

茴香油或は茴香の粉末を健胃、驅風、祛痰藥となし其他矯味藥矮臭藥に應用す、茴香油の分量は一回〇、〇二瓦乃至〇、〇五瓦とす又茴香油より茴香水、茴香精、アンモニア茴香精を製す、茴香水は点眼料驅風藥に用うれども多くは祛痰に他合劑の佐使藥とし茴香精は通例矯味矮臭の目的に他の内用水劑に和用し又アンモニア茴香精は祛痰性の水劑に和用す。

一、ウコギ (ウコギ科基本植物) 五加 山野に生ずる落葉灌木にして高さ六七尺に

達し幹及枝に刺あり、葉は五個又は七個の小葉より成る掌狀複葉にして裏面は平滑なり、春日黄綠色五瓣の繖形花を綴り黒色の球果を結ぶ、嫩葉を煮食し或は和物とすれば香氣あり且美味なり、根皮を藥用に供す漢方に所謂五加皮即是なり、其成分は同科のオタネニンジンに似たり。五加皮は強壯藥として賞用せらる、即春季發芽前根皮を採取し細割して陰干とし煎用す、一日一匁半乃至三匁を毎食後に分服す、尙藥效に付ては後述藥用人參即オタネニンジンの部を参照せらるべし。

一、ウツボグサ (シンケイ科) 夏枯草 一名カコサウとも言ふ、原野路傍に多き多年生草本にして莖高さ一尺許、葉は長卵披針狀にして方莖に對生し莖と共に毛茸を有す、六月頃莖頂に短大なる紫色の美なる唇形花を開く、花色は紫を通常とすれども時には薄紫、帯紅、綠、白の珍種あり。開花時全草を採取陰干にして貯藏すべし、利尿藥として痲病の妙藥なり、其他ルイレキ及び月經不順にも效あり、通常一日三匁乃至五匁位を空腹時に分服すべし、古來重用せらるゝ民間藥の一なり。

痲病藥として漢方に秘傳あり即本品十匁を水一鉢に混じ七八合又は其以上に減するまで可成濃く煮じて可成短時間に之を服用すべし又患者の都合に依りては適宜甘草を加へて煎用するも可なりとす、要するに茶代用として可成二三時間内に飲用し終るべき意味なり。

一、ウド (ウコギ科) 土當歸 山野に自生すれども又一般に栽培せらるゝ大形の多年生草本なり、莖高さ四五尺に達し莖葉に多くの毛を生ず、七八月頃白色の小繖形花を開き子實は小にして紫黒色なり、野生品は香氣強し、胎其他和物として貴重せらるゝこと世人の知る所なり。

春彼岸頃根を採取し上皮を剝き水に浸したる後乾燥したるものを煎用すれば疝氣、頭痛、眩暈等に特效あり、一日用量一匁半乃至三匁毎食前に分服す。

一、ウマノスズクサ (ウマノスズクサ科基本植物) 馬兜鈴、土青木香 一名ウマノスズカケ又はオハダグロバナとも言ふ、山野に自生し他物に纏繞する多年生草本なり、葉は全邊長卵形にしてヤマノイモに似て小なり、莖葉共に一種の惡臭を有す、夏日葉腋に暗紫綠色の不整なる筒狀花を綴る

有毒草本なれども地下部を乾燥し時に應じ煎用すれば解熱、鎮咳、祛痰、清血、通經諸症に特效あり、然れども之を多量に服すれば消化器、泌尿器等を害するが故に使用に注意すべし一日量半匁乃至一匁弱毎食後内服。

一、ウメ (イバラ科) 梅 世人の周知せる觀賞植物にして又有用植物なり、原産地は亞細亞とす。

梅の根を粉末として水又は白湯にて適宜服用すれば黃疸の特效藥なり、梅の未熟果をエキスに製し毎日服用すればコレラ、腸チブスの豫防となり、梅干の仁を煎じ之に砂糖を加へて服用するときは鎮咳、祛痰の效あり、梅子を黒燒にし之に熱湯を注ぎて飲用すれば發汗驅風藥となり、茶を呑み過ぎ眠られざるとき梅干二三個を食すれば一種の催眠藥となり又梅子を飯粒に練り頬に貼れば齒痛を治す。

一、ウワウルシ (シヤクナゲ科) 一名クマコケモモとも言ふ北半球各地に播布し北地に於ては平地、南地に於ては山嶺に生ずる常緑の小灌木なり、莖は地に伏し長さ三尺餘に至ることあり、葉は倒卵形にして革質を爲し全邊にして互生す、花は帯紅白色にして莖

端に短き總狀花を綴る、果實は赤色の滑澤なる球狀の核果なり。
葉をウワウルシ葉と稱し薬用とす、多量のタンニン質の外没食子酸及びアルブチンを含む
するが故に膀胱加答兒及び尿道諸症の収斂薬又は防腐薬に煎用す、日本薬局方の公認に係
はり各地の薬店に販賣せり、即収斂利尿の效あるが故に尙腎臟炎、白帶下、血痲等に用う
葉一日の用量は二匁半乃至五匁位にして毎食前に分服す但し往々コケモモ、イヌツゲの葉
を混同せるを見ることあり購求の際信用ある薬店を選ばれたし。

エ、エ

一、エノキ (ニレ科) 榎 暖温兩帶に自生する落葉喬木にして概形ムクノキに似た
り故にムクノキをムクエノキとも稱し本種をメムクノキとも稱す只ムクノキの樹皮は帶黃
褐色なるに反しエノキの樹皮は帶褐黑色なり又ムクノキの果實は熟すれば紫黑色なるに反
しエノキの果實は熟すれば初め黃赤色にして後褐色に變ず。

本植物の樹皮を煎用すれば月經不順を治し食慾を増進す又葉の煎汁は漆瘡即ウルシマケに
特效あり、内用量適宜とす。

一、エビスグサ (マメ科) 決明 園圃に栽培する草本にして莖高さ二三尺に及ぶ、
葉は羽狀複葉にして各小葉は倒卵形本小にして末大なり、夏日葉腋に深黄色の花を開く、
全草に少量のエモチンを含む。

盛夏全草を陰干細割し一日五匁乃至十匁を煎出して毎食前に分服するか或は茶代用に隨時
内服すれば健胃を兼ねたる利尿薬として慢性胃加答兒及び痲病、消渴、腎臟病等に效あり
、薬效は大体に於てカハラケツメイに同じ。

一、エビツル (ブダウ科) 山野に自生する蔓性の灌木様多年生草本なり、一般に
ヤマブダウに似て葉は之より稍小なり、褐色の毛を密生す、七月頃開花し紫黑色の果實を
結び食用となる。
葉を天日に干し揉てモグサを造りイボに灸すれば必ず落る奇效ありと言ふ。

一、エフリコ (サルノコシカケ科) 落葉松茸 一名トウボシとも言ふ、落葉松即カ
ラマツの老幹に寄生する菌類にして大なるものは五六寸に及ぶ、サルノコシカケに似て質
硬く、上部に蝸牛の殻の如き暗褐色の輪層あり下部は褐色にして扁平なり、柄なく傘は初
め肉質にして白色を呈すれども乾燥すれば海綿状となり碎け易し、食用となし又薬用とし
て貴重せらる、有効成分はアガリチン酸なりとす、劇薬に屬す。

本品を乾燥して破碎細末とし就床前に頓服するか或は之を煎用すれば盜汗を抑制する意味
に於て肺結核の特效薬となる、用量一回一瓦乃至二瓦とす。

日本薬局方は本品より抽出したる無味無臭白色のアガリチンを肺結核の治療に應用す用量
は〇、〇五乃至〇、一瓦を一回の分量と定む。

一、エンゴサク (ケシ科) 延胡索 早春淡紫色の花を開く多年生草本にして莖高さ
五六寸地下に塊莖を有す、別種コバノエンゴサク、オホバノエンゴサク、ヤブエンゴサ
ク、ヤマエンゴサク等あり本種と共に有毒植物なり。
秋彼岸過塊莖を乾燥したるものを打撲傷に外用すれば特效あり又之を煎用すれば産後血の
道に能く、利尿便通に效ありと言ふ、内服量は一日半匁乃至二匁とす。

オ、ヲ

一、オキナグサ (ウマノアシガタ科) 白頭翁 翁草 山野に多き草本にして莖高さ
三四寸より一尺許に達す西洋草花アネモネの類なり、春日日常りよき原野に花の外面白毛
を以て覆はれ内部は平滑にして暗紅色を呈する様頗美にして觀賞するに足る。
葉莖を煎用すれば熱性の下痢を治し、月經不順に效あり、一日内用量二匁位。

一、ヲケラ (キク科) 蒼朮 白朮 山野に生ずる莖高さ二三尺の草本なり、莖葉共
に硬く且粗なり、春日宿根より新芽を出し稚芽は全體白色の軟毛を有す、秋日葉腋より小枝
を出し枝梢毎に一個の頭状花を開く、本種は漢方醫學の方面に於てサウジュツ又はビヤク
ジュツと稱す但しサウジュツの花は白色にしてビヤクジュツの花は淡紅色を呈すとあり。
嫩葉を食用とし根は蚊遣粉の代用品となし及び殺菌薬に供する外根を煎服すれば腹痛、吐

下を治し頭痛、驅風に效あり一日内用量一匁半乃至三匁位。

一、オシロイバナ (オシロイバナ科基本植物) 紫茉莉、白粉花 庭園に栽培せらるゝ觀賞用の草本にして莖高さ二尺餘に達す、葉は長卵形にして對生し多枝を分生して成長し節の部は膨大せり、夏より晩秋まで漏斗状の花を開く花色白、紅、黃、絞等あり、果實は圓形にして外面黒色を呈し内面白色なり、是本種の名の因て來れる所以なり。
本植物の生葉を揉み其汁を塗布すれば疥癬其他頑固なる一切の皮膚病に效あり。

一、オトギリサウ (ビャウヤナギ科) 小連翹、弟切草 山野に自生多き莖高さ二三尺の草本なり、葉は無柄其形披針狀長楕圓形にして對生す、夏日莖梢葉腋より花梗を生じて黄色五辨の小花を綴る、稀に白色のものあり、古來切傷、瘡毒を治し殊に鳥類の傷に神效ありと傳へらる、昔時花山院の朝藤原爲頼と言ふ人此草を用ゐて鷹の病を治するに妙を得たりしが其弟が秘法を他に洩したりとて弟を斬殺したるより此名を生ずるに至りたりと言ふ、成分は一種の揮撥油なり。
本植物の葉、莖及び花を油に漬けたる汁液は打撲傷、切傷、瘡毒、耳病に塗擦して特效あり

り又莖葉を煎じ出したる汁液にて局部を温むればリュウマチスの痛を減する特效あり尙開花時に採取蔭干したる全草を一日五匁乃至十匁位の分量にて煎用すれば子宮出血を止め痲病消渴にも特效ありと言ふ。

一、オナモミ (キク科) 原野に自生する草本にして莖高さ四五尺に達す、葉は心臟三角形にして互生し雌雄同株なり、夏日梢上に黄色の頭狀花を開く、雌花を基部に雄花を末端に著生す、雌花は花後成熟して硬刺を密生する果實を結び他物に附著す。
本植物の莖芽の浸出液は清血、治熱の效あり、一日用量一匁半乃至三匁位。

一、オニシバリ (ヂンチャウゲ科) 白瑞香 山野海邊に自生する落葉灌木なり莖高さ三四尺に達す、葉は長筈形にして普通梢上に集生し夏に至りて脱落するを以て一名之をナツボウズとも言ふ、早春既に花あり黄綠色の小筒狀花にして花後楕圓形の紅果を結ぶ、樹皮にダフニン其他の毒素を含む。
樹皮の煎液は引赤發泡の效あるが故に之を塗布して慢性の皮膚病、リュウマチス諸症、痛風等に外用す。

一、オホバコ (オホバコ科基本植物) 車前 山野路傍に普通なる宿根草本なり、葉は根出葉にして長柄を有し廣卵形なり、夏日葉間より二三花莖を抽ぎ多數の小穂狀花を綴る、種子及び葉にブランタギンと稱する配糖體を含む。

開花時に全草を採取陰干とす又種子は秋季生熟したるものを採取日干とす、種子は之を車前子と稱し利尿薬として心臟水腫諸病に用ゐる兼て男女陰部の痒痛に用う又下痢止の妙薬なり、次に葉は健胃薬として慢性胃加答兒即ち胃弱に用ゐる、間歇熱、疝氣、赤痢に能く又小兒の百日咳に偉效あり其他生葉を焙りて腫物に貼れば膿を吸出す等民間薬として用途頗多し、種子の内用量は一日二匁乃至四匁、葉は手に二握位を適當とし毎食前に煎用す。

一、オホヒナノウスツホ (ゴマノハグサ科) 山野に自生する多年生草本にして莖高さ四五尺に達し葉は楕圓形にして縁邊鋸葉を有し對生す、夏日梢上に小枝を分ち紫黑色の小花を開く。

種子を煎用すれば心臟諸症に特效あり葉を煎用すればルイレキに特效ありと聞けども九州地方にては比較的野生少く未だ充分なる研究の結果を得ず。

一、オモダカ (オモダカ科基本植物) 澤瀉 池沼水邊に自生する多年生草本なり、

其形クワキに似たれども葉細く且塊莖頗小なり。

十月末地下の塊莖を採取し天日に干し利尿薬として諸水腫病に煎用し特效あり一日分の用量は三匁乃至六匁なり。

一、オランダセリ (サンケイ科) 洋名バースレーと稱す舶來の二年生草本にして香味料として廣く栽培せらる。

葉及び果實を煎用すれば通經薬として特效あり、其他種々の説を爲す者あれども藥效未だ確實に判明せず、一日用量二匁乃至四匁毎食前に分服す。

一、オレイフ (モクセイ科) 阿列布 小亞細亞及び歐洲南部地方に原産する常緑の木本にして幹高さ二丈内外に達す、葉は披針形又は長楕圓形にして全邊革質なり、イヌツゲの葉に似たり、花は淡綠色の總狀花にして、核果は脂肪に富み三個の種子を内藏す。

豊熟せる果皮を壓搾して製したる脂肪油を阿列布油と稱し薬用及び食用に供す、主成分は多量の脂肪油にして少量の軟脂、アラピン等を含む、日本薬局方に於ては引赤紙、薬用石鹼、軟膏、硬膏を製する原料に用ゐる又乳劑料、灌腸料等に供することゝせり、近時我香川縣小豆島地方に盛に栽培し多額の利益を得つゝありと聞く。
因に某植物書に本種一名ホルトノキと稱す云々と記載あれどもホルトノキは膽八樹科の基本植物にして勿論本種と科を異にす彼是混同すべからず。

カ、ガ

一、カイソウ (ユリ科) 海葱 地中海沿岸に自生する多年生草本なれども藥草として栽培する人あり、地下に大なる鱗莖を有し葉は廣披針形にして叢生す、夏日中心より二三尺の花莖を抽き上部に穂を成して緑白色の小花を綴る、白色海葱、赤色海葱の二種あり各國の藥局方は大抵前者を採用せり。

根莖を海葱と稱し薬用に供す日本薬局方の採用する所なり、八月頃落花後に根莖を採掘して外皮と中心の柔軟なる部分とを除き其他の部分とを裁斷し乾燥して貯存す、主として利尿薬に應用す大效あり一日數回一回〇、〇二乃至〇、〇五瓦宛を極度とし又人體無害の殺鼠薬を造る、劇薬なり貯藏に注意すべし。

一、カエブテ (テンニンクヅ科) 加耶布的 東印度、馬來半島等に産する常緑の喬木にして高さ二丈内外に及ぶものあり、葉は長披針形にして互生し、花は白色の總狀花なり、半球狀の果實を結び多數の種子を藏す。

新葉及び枝を蒸溜して得たる揮發性の油をカエブテ油と稱し、樟腦様の芳香を放ち主としてチネオールを含み興奮薬又は驅風薬に稀用す、日本薬局方の用量は一回一滴乃至五滴なり、又リユウマチス、神経痛、皮膚病等にオレーフ油と等分に混和して塗擦若しくは塗布すれば特效あり。

一、カカオノキ (アヲギリ科) 一名ココアノキ又はチヨコレートノキとも言ふ、南米熱帯地方に産する常緑の喬木なり、葉は楕圓形にして先端尖り、花は赤色の五瓣花なり、

果實は長卵形にして長さ三寸内外肉質の果皮を有し數十の種子を包藏す、種子を熬りて粉末となしたるものをココアと稱し之に砂糖牛乳澱粉等を加へ湯に溶して飲料とし或は菓子に混用す又右粉末に同量の砂糖と少量のワニラ及び黄色の色素を加へたるものをチョコレートと稱し飲料に供す共に興奮性あり。

種子を壓搾して得たる脂肪をカカオ脂と稱し主成分は、ステアリン酸、パルミチン酸、油酸等なり日本薬局方はカカオ脂を認めて坐薬即挿入薬、腔球、乳劑等の基礎質となし又ボマード等として粉粧料に用う。

一、カキ (カキ科基本植物) 柿 世人の知らるゝ有用果樹の一なり、柿の果實を生食すれば脚氣衝心に能く、柿澁を塗布すれば蛇、蟻の咬毒を消し或は其豫防となり、又花萼即ちへたを煎用すれば、吃逆即ちシヤクリを即治する奇效あり、其他果實は酒毒を去り又串柿は祛痰の效あり、シヤクリには一回柿蒂十個位を用う、因に西洋薬にはシヤクリを即治するものなしと聞く。

一、カキドウシ (シンケイ科) 連銭草 原野路傍に多き蔓性草本にして莖葉共に一

種の香氣を有す、方莖にして地を匍ひ葉は圓形にして鋸齒ある葉を對生す、春日葉腋に淡紫紅色の唇形花を開く、花後莖は地に伏して蔓となる。

莖葉を陰干煎用すれば小兒の疳を治する效あり、一名カントリサウの稱ある所以なり又強壯薬にして陰痿を治し慢性の肺炎及び泌尿器加答兒に有效なり一日の用量大人は五匁乃至八匁就學前の兒童は二匁乃至四匁位を毎食前に分服す。

一、カキノハグサ (ヒメハギ科) 山野に自生する多年生草本にして莖は高さ一尺許に達す、葉は柿の葉に似て數葉互生し六七月頃莖梢に黄色の不整花を綴る、種子は褐色にして毛あり。
地下莖を陰干煎用すればヒメハギと同様痰を去り又強壯薬として有效なり用法分量はヒメハギの部を参照せられたし。

一、カサモチ (サンケイ科) 藁本 山野に自生する多年生草本にして莖高さ三四尺に達す、莖葉共に毛茸を生ず、葉は有柄にして葉身三羽狀に分裂し不整の鋸齒あり、夏日白色五瓣の花を開く。

根を煎用すれば頭痛、膝痛を治し破傷風に效あり又煎汁は髪を洗ふに用ゐらる。内用量は一日二匁乃至五匁毎食前に分服す。

一、カシユウ (タデ科) 何首烏 和名ツルドクダミと稱す昔時支那の何首烏と言ふ人此靈藥を發見したるに因り發見者の名を取りて草名とし藥店に於ては漢名を音讀して一般にカシユウと稱して販賣す、近時本草の盛名に促され各地に栽培せらるゝに至れり。山野自生の多年生草本にして常に他物に纏繞す、葉は心臟形にしす先端尖り互生す、概形イタドリ又はサツマイモの葉に似て之より小なり、秋葉腋より小梗を出し白色の小花を綴る、根は巨大の數塊を連接し此部分を藥用に供す。

大正十年十一月四日附官報の試験報告に依れば含有主成分はレチチン、燐酸、酸化鐵、酸化カルシウム、オキシメチールアントラヒの化合物クリツファン酸等なり。

秋彼岸頃塊根を採取し能く洗ひ細切して陰干にしたるものを煎用するか或は之を粉末にしたるものを白湯にて内服すれば滋養強壯藥として特效あり、漢方に於ては右強壯藥の外胃腸、心臟、肺臟、肝臟、腎臟、婦人病等所謂萬病に特效あるものゝ如く吹聴する人もあれども強壯藥を除き果して藥效ありやは多大の疑問あり、回顧すれば大正八九年異常なる好

景氣の際不老不死の靈藥として盛に販賣せられ我國に於ける栽培品にして然も尙之を支那の山地品なりと詐稱し一匁金四圓乃至八圓にて買入れたる人少なからず、何事も極端を誠む。

普通栽培品は一日塊根二匁乃至五匁を水二合五勺に入れ文火にて一合五勺位に煎出し毎食前三回に分服するを適量となすものゝ如し、或は粉末を一日一回一匁空腹時に酒にて飲用し疾病の際は茯苓の湯煎にて飲用すべしと説く人あり、或は粉末一匁黒大豆粉一匁を混和し一日三回白湯にて分服し若しくは蜂蜜にて練り丸藥にして服用し尙本品半斤を酒二升に浸出して中風の豫防藥にすべしと説き或は本品に後述のクコを混じ煎用すれば頗有效なりと説く人あり。

右の外本植物の生葉を焙り腫物に貼れば膿を吸出す效能あり。

一、ガジユツ (メウガ科) 莪朮、莪述 東印度の原産にして我國には支那より渡來したるものなり 屋久島地方の暖地に於て多く栽培せらるゝ多年生草本にして地下に鶏卵大の塊根あり、莖高さ二三尺、葉は廣披針形にして紫色の斑点あり、花は地上近く開き紅色なり、塊根を藥用に供す成分は一種の揮發油にして其主成分はチネオール、澱粉等なり

根は芳香性健胃薬として消化不良に特效あり、普通は塊根を細切乾燥し之を粉末として一日一匁乃至四匁位を白湯にて毎食後に内服す。漢方の傳授薬に莪茂胃散と稱するものあり即莪茂末三匁、龍膽末一匁、重曹十匁を混和して一回半匁宛毎食後服用すれば胃弱に特效あり、編者等の少年時代に往々體驗したることあり。

一、カスカリラ

(タカトウダイ科) 加斯加利刺 西印度諸島に産する灌木にして高さ五六尺に及ぶ、葉は長卵形にして先端尖り、裏面には帯黄銀白色の光澤ある鱗屑を密被せり、花は單性にして穂狀の圓錐花序を爲し、上部に雄花下部に雌花を著く、即雌雄同株なり。

樹皮をカスカリラ皮と稱し、カスカリル酸、カスカリリン等の苦味質を含有するが故にカスカリラ丁幾を製し、腸胃加答兒、下痢、貧血症等に興奮薬及び健胃薬として稀用し、又煙草に混和し香氣を附するに供す、日本薬局方の採用する所なり。

一、カタバミサウ

(カタバミ科基本植物)

酢漿草 莖葉に酸味を有するが故に一名

スイモノグサとも言ふ、庭園路傍に普通なる多年生草本にして、莖は地上を匍ひ所々に花梗を出して黄色五瓣の小花を開く、花後蒴果を結び裂開して盛に種子を飛散す、一種葉の紫赤色なるものあり之をアカカタバミと言ふ、本植物は地中に水氣あり且稍透明なる細長き根を有し、普通除草に厄介なるものなり、梅干を漬けるとき莖葉をシソに混じて漬くれば色味共に佳良なりとす、莖葉に多量の蓚酸を含む。

本植物は筑後地方の方言にてコガネグサと稱し、莖葉を煎用すれば痲病の特效薬なり、又其生汁を突目に点するときは一時非常にしめども間もなく癒え、或は生汁を適宜内服せしむるときは小兒の百日咳に妙效ありと主張する人々あり、尙生汁をカイセン、田虫、火傷湯傷に度々塗布するも效ありと言ふ。

痲病薬としての煎用量は一日五匁乃至八匁位毎食前に分服す。

一、カナムグラ

(クハ科)

葎草 山野草叢に自生多き一年生草本にして他物に纏繞す、莖及び葉に下向せる刺毛あり、葉は掌狀に分裂して互生し、花は夏秋の頃開き黄綠色にして雌雄異株なり、圓形の果實を生ず。

種子は苦味を有し之を煎用すれば苦味性健胃薬となる一日一匁乃至二匁位を毎食後に分服

すべし。

一、カニクサ (カニクサ科基本植物) 海金砂 一名ツルシノブとも言ふ、山野に生ずる多年生のシダにして莖は蔓を爲して他物に纏ひ、細く延びて數尺に達す、質硬くして光澤あり、筑後地方にてはシヤミセンカヅラと方言す。

天日に干して胞子を採り白湯にて服するか或は之を水二合半に入れ文火にて一合半に煎じ詰め一日一匁乃至三匁の用量を毎食前多量の湯にて内服すれば利尿薬として痲病に特效あり又莖葉の煎汁にて赤兒の瘡を洗へば治すること妙なりとす。

一、カハチサ (ゴマノハグサ科) 水苦草 水湿地を好みて生ずる草本にして莖高さ一尺より二尺に達す、葉は披針形にして鋸齒あり對生す、莖葉共に柔軟なり、五月頃梢上葉腋に小梗を出し白色にして淡紫の線條ある穗狀花を綴る。

本植物の全草を蔭干煎用すれば古來胃痛を全治すと稱し民間に重用せらる、分量は適宜なるが如し。

一、カハヤナギ (ヤナギ科) 水邊に普通なる落葉亞喬木にして高さ一丈許に達す、葉は披針形にして短柄を有し長さ二寸乃至三寸幅四五分を常とし縁邊に鋸齒を有す互生なり、五月頃黄綠色の穗狀花を雌雄異株に生ず。樹皮を煎用すれば健胃薬となる一日一匁乃至三匁位毎食後に分服すべし。

一、カハラケツメイ (マメ科) 山扁豆 原野海邊に普通なる一年生草本にして莖高さ一二尺に達す、葉は羽狀複葉にして概形クサネムに似たれども莖稍硬く中空ならず且莢はクサネムの如く膨起したる節を有することなし、夏秋の頃梢上葉腋に黄色五瓣の花を綴り莢果を結ぶ、有效成分は少量のエモチンなりとす。

葉は茶の代用を爲しネムチャ或はコウボウチャとも稱す、多量に飲めば逆上すと云ふ、又全草を採取し味噌汁として煮食すれば水腫、腸滿を治する效ありと稱せらる、要之健胃を兼ねたる利尿薬にして胃弱、腎臓病及びヤニ目、ツカレ目等に應用す、一日八匁乃至十二匁を随時分服す。

一、カハラヨモギ (キク科) 茵陳蒿 特に海邊河原に自生多き多年生草本なり。根

出葉はニンジンの葉に似て越年すれども枯れず、白毛を密生すれども梢葉は細く長く糸の如く分裂す、緑色の小頭状花を綴る。

五月及び十一月頃の兩期に莖葉を採取して陰干貯藏す、之を煎用すれば黃疸の特效藥なりとす、普通は二匁乃至四匁を大人一日分の用量として數回茶代用に分服す。

漢方に於ては茵陳丸を製劑し黃疸の妙藥として賞用せらる、即本草十五匁、黃芩（コガネヤナギ）十二匁、枳實八匁、大黃十二匁の四味を細末混和し蜂蜜にて練合せ丸藥百粒を製し毎食前十粒宛を白湯或は砂糖湯にて服するに在り、

一、カブラ (ジウジクハ科) 蕪青 一名カブラナ或はカブとも言ふ、蔬菜の一種なり、筑後地方にてはネカブと方言す。

根の汁液を患部に塗布すれば凍傷を治する效ありと言ふ。

一、カヘデ (カヘデ科基本植物) 槭樹 普通に山紅葉と稱する落葉の喬木なり。樹皮の脂即ヤニを患部に塗布すればカイセン其他の皮膚病に效ありと言ふ。

一、カマラ (タカトウダイ科)

加麻刺 和名をクスノハガシハと稱す、東印度、フイリツピン、東部濠洲、支那、臺灣等に産する常緑の喬木にして高さ二三丈に及ぶ、葉は長卵形にして長柄により互生す、花は雌雄異株にして黄緑色の小花を綴れども花冠なし、稚枝、葉部、花部、共に毛茸及び腺を以て覆はるる特長あり、圓形の蒴果を結び表面に赤褐色粉狀の腺あり。

果實に附着する腺體を振動又は敲打して採取したるものをカマラと稱し、樹脂カマリンを含むが故に蠟虫驅除藥として重用し又赤色の染料に供す、日本藥局方の用量は七瓦半乃至十二瓦を散劑又は舐劑として使用する。

一、カミツレ (キク科)

中部南部歐洲及び西部亞細亞に産する越年生草本にして我國に於ても隨所に栽培せられ、相當の園藝家には大抵販賣用の種子を藏せり、葉は柔軟にして細裂し多枝を出して生茂す、一種の香氣を有し托葉を缺げり、夏日枝梢上に白色にして中心黄色の頭状花を開く、花後褐色の果實を結ぶ、一名カミルレとも言ふ、花を乾燥したるものを藥用に供す、氣味峻烈芳香性にして僅に苦味を有し主成分は一種の揮發油苦味質等なり、日本藥局方の公認する所にして各地の藥店に販賣品あり。

秋彼岸前花頭を採取乾燥したるものを専ら發汗解熱藥として感冒、リュウマチス等に用う一日の用量十瓦乃至二十瓦を水百五十瓦に浸出したる浸劑とし或は之に少量の糖分を加へ毎食一時間前に温服すべきものとせり。

一、カヤ (イチキ科) 榧 山地に自生する常緑の喬木なり、果實に多量の揮發油即榧油と脂肪鞣酸等を含有す。

果實を生食すれば諸寄生虫を驅除する特效あり、一日三十顆乃至五十顆を毎食前空腹時に用う、小兒は年齢に應じ其四分の一乃至二分の一に加減すべし。

一、カラシナ (ジウジクワ科) 芥菜 園圃に栽培せらる、蔬菜の一にして、葉は深裂して刺毛を有し、種子は黄色なり、葉及び種子共に辛味を有すれども暫時にして癒ゆ。種子を芥子と稱し之を水に漬くれば粘液を生ず、種子を搗碎きて粉末となしたるものを芥子粉と稱し又種子を搗碎き水を加へて放置したる後、更に水を加へて蒸溜採取したるものを芥子油と稱し、共に香辛料及び藥用に供す、醫治用としては芥子泥となし皮膚を引赤するに用う、日本藥局方の認むる所なり。

一、カラスウリ (キウリ科) 烏瓜、王瓜 樹林等に自生する多年生草本にして、他物に纏ひて高所に上り、雌雄異株なり、葉は互生にして形丸く且厚く、葉腋毎に卷鬚を有す、夏紅葉間に白色花を開き、花後チャボの卵大の果實を結び熟すれば赤色を呈す、地下に長さ塊根を有し之より澱粉を採る、筑後地方の方言にゴウリと言ふ。

藥用の範圍は相當に廣し即根を煎用すれば胃腸の痲熱を治し、月經を順調ならしめ、咳を鎮め痰を去り、惡血を清め、利尿便通の藥效あり又莖の切口より採取したる汁液を煮詰めたるものを火傷、湯傷に塗布すれば治癒すること妙なり、内服の分量一日二匁乃至五匁位を適當とす。

一、カラタチ (ヘンルウダ科) 枸橘 刺多き植物にして晩春白色五瓣の花を開き黄色球形の果實を結ぶ、生垣に利用せらるること普く人の知る所なり、筑後地方にてはゲズと言ふ然れども此方言の範圍は相當廣きが如し。果實を煎用すればタンを去り、疝氣を治す一日二匁乃至五匁位毎食前分服。

一、カラバルマメ (マメ科) 加刺拔兒豆 亞弗利加の西海岸殊にカラバル河附近に産する蔓性の小灌木なり、葉は三小葉より成る復葉にして、概形インゲンマメの葉に似たり、花は暗赤色の蝶状花なり、莢果を結び二個又は三個の種子を包蔵す。種子をカラバルマメと稱す、猛毒性あれども又之を薬用に供し、鎮痙薬及び瞳孔縮小薬として眼病に應用す、日本薬局方の認むる所なり。

一、カリヤス (カホン科) 刈尖、青茅 概形ス、キに似たれども、一般に細く、穂は三個に分岐するを常とし、多きも五六個に過ぎず。葉を煎用すれば蕎麥の食傷に妙なりと言ふ一回三匁乃至五匁頓服。

一、カンアフヒ (ウマノスズクサ科) 杜衡 山地に生ずる多年生草本なり、葉は心臟形にして先端尖り、葉質厚し、通常葉脈上に白色の斑條あり、冬日葉間に暗紫色の小花を開く、本種に似たるものにウスバサイシン即細辛あり、本種よりも葉薄く光澤なく斑紋なし、然れども其薬用上の効果は同様なり。地下莖を煎用すれば喘息の特效薬にして咳を鎮め痰を去る、一日の用量は二匁乃至三匁に

して毎食前に分服す。
傳説に秦の徐福始皇帝の命を受けて東海に不老不死の靈薬を求め我肥前金立山に登りて發見したりと言ふ俗稱クロツハは即本種を指すものなりと聞く。

キ、ギ

一、キウリ (キウリ科基本植物) 胡瓜 食用果の一なり

莖より採りたる汁液を其儘塗布すれば化粧水として顔の荒れを止め、アセモを治し其他火傷湯傷に效あり又汁液二合に白砂糖五十匁を溶し一合に煎じ詰めたるものを毎食前小匙に二三杯宛温湯に溶して服用すれば感冒の解熱薬となり尙根は利尿薬として脚氣及び水腫に效あり用量等は適宜なりと言ふ。

一、キカラスウリ (キウリ科) 黄鳥瓜 概形前述のカラスウリに同じ只果實稍大形

にして短く熟すれば黄色となる差あり。
根より製したる澱粉を天瓜粉と稱しアセモ、濕疹等に散布して效あり其他の藥效はカラス
ウリと同様なり、同部を参照せらるべし。

一、キキヤウ (キキヤウ科基本植物) 結梗 秋の七草の一に數へらるゝ觀賞植物なり

り、根を藥用に供す有效成分は遠志根セネガ根同様サポニンなり。
根を煎用すれば鎮咳祛痰藥として喘息、肺病、肋膜炎、感冒其他に特效あり、用量一日二
匁乃至三匁毎食前に分服す。

一、キササゲ (ノウゼンカヅラ科) 木角豆 梓 一名アツサとも言ふ、落葉の喬木に

して高さ二丈に達す 葉は桐葉に似て長柄あり、夏日黄白色に紫色の線紋ある唇形花を開
く、莢果は長さ一尺許に及び房状を爲す、キササゲに似たり、種子は多量の澱粉を含む。
種子は利尿藥として腎臟諸病に特效あり用量一日八匁乃至十二匁を毎食前に煎用し尿量の
多少に依り加減す尙葉の揉汁を度々塗れば腫物水虫を治す。

一、ギシギシ (タデ科) 羊蹄 一名ノダイツウとも言ふ、原野路傍に普通の草本に

して晩春淡緑白色の花を綴る、地下に黄色の長大根あり、
種子を煎用すれば便秘を治し解熱藥となり又生根の摺汁は之を塗布して疥癬を即治し又生
汁にウドン粉及び卵の白味を適宜練合せリュウマチスの患部に貼付すれば一夜にして痛を
去ると言ふ尙根の粉末或は煎劑は健胃瀉下に效あり用量一日普通は一匁乃至二匁瀉下には
約三倍の分量とす、大黃と同様の成分あり。

一、キツタ (ウコギ科) 常春藤 普通のツタ即ナツツタに對して一名フユツタとも

言ふ、山野に普通なる常緑の攀登性灌木なれども時に栽植して木石牆壁等に攀縁せしむる
ことあり、古木に至りては蔓性の幹長大となり普通の木幹の如く直立するものあり、キツ
タの名蓋し此に出づ、葉は深緑色にして厚く其形種々にして或は裂片を有し或は之を有せ
ず、秋冬の候緑色五瓣の小繖形花を綴り、花後紫黑色の南天實大漿果を結ぶ。
莖葉を煎用すれば發汗驅風の效あり用量適宜とす。

一、キツネノボタン (ウマノアシガタ科) 回回蒜 産地形状花色果實等タガラシに

酷似せる有毒草本なり只タガラシの莖葉には毛茸なきに反し本種には之を有する点に於て鑑別し得べし。

タガラシと同じく葉にアネモン油を含み悪性腫物リュウマチス等の引赤發泡に應用する外本種は水虫にも應用す、使用方法はタガラシの部参照せらるべし。

別種コキツネノボタンあり、山地に自生し本種よりも葉狹長にして花實共稍小形なり、藥效に於ては特に異なる所なし。

一、キツネノマゴ (キツネノマゴ科基本植物) 爵牀 原野に生ずる一年生草本にし

て高さ一尺餘に達す、方莖にして廣披針形の葉と枝とを對生す、夏日梢上葉腋に花梗を出し、白質にして紅紫色の斑点ある小形の唇形花を綴る、花後蒴果を結び暗褐色の種子を藏す。

葉莖の汁液を塗布すればリュウマチスに能く、充血を治す。

一、キナ (アカネ科) 規那 南米アンデス山東部地方及びペルー、ボリヴキア、ヴ

エネズエラ、ニユーグラナダ等に産すれども今は東印度瓜哇、前印度南部、セイロン島等

に栽培せらるゝに至れり、喬木或は灌木狀を呈し黄色規那、赤色規那、褐色規那の三種あり、然れども三種を通じ葉は革質全邊にして互生し、花は圓筒狀にして先端五裂し内部に絨毛あり、淡紅色を呈す。

皮は規那皮と稱し貴重なる藥品なり、主成分はキニーネ、キニチン、シンコニン、シンコニチーネの四種にして健胃強壯藥及び解熱藥として特效あり殊にマラリヤ性諸症に特效あり、日本藥局方の製劑は規那越幾斯、規那丁幾等を主とし、局方示定の用量は一日數回一回〇、三乃至一、〇瓦を極度とす、本品は各地の藥店に在り用法等承合の上求めらるべし。

民間藥として本皮一匁を水二合にて現那煎を製し血液増加心臟強壯藥として賞用す用量は一日三回一回普通の湯呑にて一杯以内毎食前服用す。

一、キハダ (ヘンルウダ科) 黄蘗、黄柏 山地に生ずる落葉の喬木にして高さ數丈

に達し、葉は羽狀複葉にして對生し、各小葉は卵狀楕圓形先端尖り表面綠色にして裏面帶白色なり、縁邊に鋸齒及び毛あり、夏日枝梢上に黄綠色の小花を開く雌雄異株なり、果實は黑色にして大豆大なり、樹皮の外皮は灰白色にして内皮は黄色なり、是キハダ即黄膚の

名ある所以なり、此黄色部を染料とし又薬用に供す、成分は黄連と同じくベルベリンなり。

内皮を粉末にしたるものを口唇の荒れたるに塗り、小児の股擦に散布し若しくは之を酢にて練り打身に貼れば妙なり又内皮の煎汁を切傷、疥癬、毛虱、水虫、白雲に塗布し或は洗眼料及び罌法薬としてタダレ目、ノボセ目等に外用し且内皮の煎汁を子宮出血、健胃、腹痛等に内服して何れも特效あり、内用量は一日半匁乃至一匁位とす。

因に熊膽丸と稱し坊間に販賣する薬品は多くは本種又は後述のニガキより製劑したるものなり。

一、キフヂ (キフヂ科基本植物) 旌節花 一名マメフヂとも言ふ、山地に多き灌木にして時に園養せらる、幹高さ六七尺より一丈餘に及ぶ、葉は平滑卵形先端尖り鋭き鋸齒を有し互生す、春日葉に先ち穂を爲し黄色四瓣の愛らしき花を多數に綴り下垂す、果實は藥果にして稍球状を呈し凸頭を有す。

材心を煎用すれば利尿薬として水腫病に特效あり用量一日六匁乃至十匁茶代用に内服す、此に附言す花を以て有名なる荳科の藤の根は同じく利尿の效あれども一時宣傳せられたる

如く其根に生ずる瘤が果して胃癌に特效ありやは大なる疑問なり。

一、キムラタケ (ハマウツボ科) 肉従蓉 一名オニクとも言ふ、富士、日光、御岳

及び北海道等の諸高山に自生し普通ミヤマハンノキの根に寄生せる無緑葉の草本にして大なるものは莖高さ一尺内外に達し肉質にして柱状を爲す、莖葉共に黄褐色なり夏日莖の上部に淡紅色の花を綴り、根は塊状を爲す、全草を採りて薬用に供す。

全草を乾燥し粉末として其儘服用するか或は本品を細割して煎用すれば強壯薬として陰痿、遺精を治し、婦人のコシケに偉効あり富士山附近にて肺病の特效薬として販賣せる者あるを見る蓋し此強壯を基礎としたるものならん、尙解熱薬として感冒に内服し其他止血薬として粉末を塗布す、内服量は一日二匁乃至四匁位にして毎食前に分服す。

一、キラシサウ (シンケイ科) 金瘡小草 一名デゴクノカマノフタとも言ふ、早春

路傍畑地等に數莖地に敷きて簇生し、葉は長楕圓形にして對生す、深綠色にして紫色を帯ぶ、花は美なる小形の唇形花にして其色淡紫色なるを通常とすれども稀に白色のものあり、莖葉共に毛あり。

生葉の汁液を塗れば火傷、切傷、蝨毒に能く、生葉を飯粒に煉りて貼ればヨウ其他悪性腫物の膿を吸出し又莖葉を湯に入れ腰湯すればリユーマチス、神経痛に特效あり。

一、キリ (ゴマノハグサ科) 桐材を以て名高き落葉の喬木なり。生葉を揉みて度々塗れば疣を落し又桐屑の煎汁を時々塗れば毛髪を黒くす。

一、キンカン (ヘンルウダ科) 金柑 全形蜜柑に似て小なり、果實は指頭大にして冬日成熟し翌春まで落ちず、マルミキンカン及びナガミキンカンの二種あれども藥效上異なる所なし。

果實十顆を二合の水に入れ一合五勺位に煎じ詰め隨時茶代用に少量宛之を服用するときは感冒其他諸症の咳止に特效あり、少量の甘味を加ふるも可なり。

二、キンシバイ (ビヤウヤナギ科) 金糸梅 觀賞用として庭園に栽培せらるる小灌木なり。

花及び葉を煎用すれば疝氣諸症に效あり用量一日二匁乃至四匁毎食前分服。

一、キンミツヒキ (イバラ科) 山野に生する多年生草本にして莖高さ二三尺に及び、葉は羽狀複葉にして黄色の小花を開く、果實は多數の刺を有し他物に附著す、莖葉及び根を煎用すれば下痢止に效あり用量適宜とす。

タ

一、クカイザウ (ゴマノハグサ科) 九楷草 我國北方の原野に生する多年生草本にして莖高さ二三尺に達し、葉は披針形にして輪生す、夏日梢上に紫碧色の穗狀花を綴る、ルリトラノヲの花に似たり、輪葉九楷に至らざれば容易に花を著生せず故に此名あり。莖葉を天日に干して煎用すれば利尿藥として脚氣、リユーマチスに特效あり、用量一日二匁乃至五匁毎食前に分服す。

一、クコ (ナス科) 枸杞 堤防路傍等に自生すれども又庭園生垣に培養せらるゝ落葉の灌木なり、葉は柔く細長く莖は灰白色にして刺あり、夏日葉腋より小豆色の小花を開きタウガラシに似たる小果を結び熟すれば紅色を呈す、味甘く苦味少なきが故に子供の好んで食するものなり。

根皮は漢方に於て之を地骨皮と稱し秋彼岸頃根を採り洗ひ皮を剥ぎ乾燥したるものを細割し一匁又は二匁を其儘煎するか或は地骨皮桑白皮各一匁甘草五分を水二合にて半量に煎じ所謂地骨皮煎を製して劇烈なる咳痰の鎮靜薬とし兼て腎臟肝臟肺臟の虛熱を治するに内用し其他根の煎汁を口舌の瘡傷に外用す、次に莖葉を適宜煎用すれば精氣を補ひ陰痿を治し催眠薬となり又其煎汁は外用して髪のクセ直しに妙なり、次に果實は枸杞子と稱し成熟果の搾汁を毎食前盃一杯宛用うるか或は生枸杞子五舛の搾汁に上酒二舛を和して所謂枸杞酒を造り滋養強壯薬即補腎益氣の薬として適宜服用す尙枸杞子を生食或は煎用して小兒の疳の薬となす等民間薬として用途頗廣し。

一、クサギ (クマツヅラ科) 海州常山 山野に生ずる落葉の灌木にして高さ一丈餘に達するものあり、葉は卵形にして對生し短毛を密生す、七八月頃枝梢上に多數の白色花

を綴る、花後小球果を結び成熟すれば碧色を呈す、葉莖共に特異の惡臭あり故に此名あり。

葉を酢に浸し足の爛れたるに貼れば特效あり又幹の心髓中に虫を生ずることあり灸りて食すれば佳味なり小兒の疳の薬として用ゐらる。

一、クサスキカヅラ (ユリ科) 天門冬一名テンモウドウとも言ふ、海岸に自生すれども又庭園に培養せらるゝ蔓性の多年生草本なり、葉は鱗片狀にして小さく、夏日淡黄色の小花を叢生し、小豆大紅色の果實を結ぶ。
地下の根莖を煎用すれば肺熱其他の解熱薬となり、吐血を止め利尿に特效あり用量一日二匁乃至四匁を毎食間に内服す、根莖の含有成分は多量の澱粉の外アスバラギン、糖分等なりとす。

一、クサネム (マメ科) 合蒴 原野畦畔等に生ずる高さ二尺内外の一年生草本にして莖は圓く中空なり、葉は羽狀複葉の細葉にして淡綠色を呈し形ネムノキ或はカハラケツメイに似たり、八九月頃葉間に有梗にして小形なる黄色の蝶形花を開く、莢果は熟すれば黒

褐色となり五六の種子を藏す、所謂節莢にして一粒毎に節を爲し切斷して裂開せず。葉を茶の代用となすこと及び藥效用法等大体に於てカハラケツメイに異る所なし。

一、クサノワウ (ケシ科) 白屈菜 竹蔭石垣等の陰地に自生すれども藥用として一度栽培し置くときは種子の飛散に依り毎年庭園の陰地に生茂するものなり、莖高さ一二尺に達し、葉は羽狀複葉にして深裂し其上面は綠色、下面は白色にして微毛あり、初夏黄色の四瓣花を開き蒴果を結ぶ、莖葉を斷すれば辛味ある黄色の汁液を出す、有毒成分たるヘリドニンを含む。

有毒草本なれども又一面有用なる藥物にして古來胃痛に内服すれば其疼痛を除くこと諸藥に冠たりと賞用せらる、開花時に全草を採取し陰干とす、丁幾又は越幾斯に製すれば尙妙なるべし、莖葉を搗き碎き酒精に浸し可成回数多く、少量宛飲用すれば胃痛の外、ジブテリヤ、肝臟、解熱藥として卓效あり又汁液を塗布すれば稍疼痛を感ずれども毒虫の螫毒、カイセン其他の頑固なる皮膚病、悪性の腫物を治する妙效あり、内服一日分の分量は莖葉を陰干にしたるもの二瓦乃至五瓦を煎劑として數回に分服すべし。

一、クサノワウ (イバラ科) 蓉子、楤子 我國數所の山地に生ずる小灌木にして通常一尺に達せず、葉は倒卵形にして枝に刺あり、早春葉に次ぎて丹朱色の美花を開く觀賞となすに足る、秋に至り黄熟したる直經寸餘の圓果を結ぶ、果實は酸味あれども小兒等の食することあり。

果實の汁液より上等の酸を採取す。果實を煎用するときは脚氣を治し、又本果實二三鉢を袋に入れ水にて煮出し風呂に入れて入浴するときは如何程難症のリユウマチスと雖ども必ず根治すと言ふ。

一、クズ (マメ科) 葛 山野に自生する多年生草本にして、他物に纏繞し長さ數丈に及ぶものあり、葉は奇數羽狀複葉にして楔形の三葉より成る、秋日紫赤色の蝶形花を開く、秋の七草の一にして根に多量の澱粉を含む。

冬季生根を搗碎き澱粉即葛粉を製し、葛根湯其他種々の食品を造る、元來緩和なる包攝藥にして病中病後の滋養品として使用し、葉は螫毒に能く、根は皮膚の癩爛を治し又花を陰干粉末にしたるものを飲めば酒毒を消す其外他藥に配伍して藥用せらる、場合少なからず、因に感冒腸加答兒の場合に用ゐらる、葛根湯は葛根八分甘草芍藥桂枝各四分生姜大棗

麻黄各六分の七味を二合五勺の水に混じ之を文火にて一合五勺に煎用するものとす。

一、クスノキ (クスノキ科基本植物) 樟、楠 四國、九州、臺灣に多き常緑の喬木なり、幹頗巨大なるものあり、葉は茸質にして硬く且光澤あり、全邊にして長柄を有す、初夏白黄色小形の繖形花を開き、秋日大豆大の黒色果を結ぶ、莖葉共に樟腦の香氣高きが故に直に之を識ることを得べし。

樟腦を採取し香料、薬用に供し又工業上セルロイド其他の原料に供すること世人の知れるが如し、日本薬局方の製品は樟腦軟膏、樟腦散、樟腦精及び樟腦オレーフ油の四種なり、以下簡單に之を順説すべし。

樟腦軟膏は凍傷、靴傷等の塗擦用に應用す。

樟腦散は興奮性及び消毒性の収斂薬にして、外用としては咽喉頭炎症、潰瘍、膿疹、慢性尿道炎に有效なり、又内用としては肺勞症の發汗に應用せられ殊に〇、五乃至三、〇瓦を極度としてオブラートに包み就床二時間又は三時間前に之を服用すべきものとす。

樟腦精は外用としてリユーマチス、神経痛、凍瘡等に塗擦或は塗布し、又内用として、一瓦或は十滴乃至三十滴を合劑として使用すべきものとす。

樟腦オレーフ油は興奮薬として半筒乃至一筒を注射し、又リユーマチス、神経痛、凍瘡等の塗擦劑として應用せらる。

一、クソニンジン (キク科) 黄花蒿 河邊の砂地等に産する草本にして莖高さ二三尺に達す、枝葉細く八月頃枝梢毎に黄綠色の小頭狀花を多數穗狀に綴る、味は辛苦にして一種の香氣あり。

葉を揉みて塗れば惡瘡に能く又蝨毒に效あり。

一、クチナシ (アカネ科) 梔子 夏日芳香ある大形の白色花を開き果實は六角の短紡錘狀にして冬期黄熟し黄色の染料に供す、クチナシ染即之なり。

果實を山梔子と稱す其成分は一種の色素にしてルビクロール酸と言ふ、成實果を天日に干して煎用すれば解熱薬、清血薬として頭痛、黄疸、吐血、下痢止等に特效あり、用量一日一匁半乃至二匁半位とし毎食前に分服す、又外用として咽喉病、口内癰爛等の含嗽料となし或は煎汁を塗布して打身、衄血に用ゐる其他山梔子十匁を水三合にて一合半に煎じたる煎汁に石灰十匁を加へたる上澄液は火傷湯傷凍傷等の妙薬として古來有名なり。

一、クツリ (イバラ科) 苦蘇 亞弗利加アビシニア地方に産する喬木なり、葉は奇数の羽狀複葉にして互生し、花は小形にして淡紅色なり、圓錐花序に排列し雌雄異株なり。

雌花を落花後に採取し紅色を帯ぶる程度に乾燥したるものを苦蘇花と呼び、コシンと稱する無味無臭中性の黄色なる柱狀結晶を含有し蠶虫驅除に應用す、日本薬局方の用法は二十瓦を振盪合劑とし又は粉末となして板狀に壓縮したる上應用すべきものとす、綿馬の如く中毒を起す虞なし、尙種子も同效あり。

一、クハ (クハ科基本植物) 桑 養蠶の飼料なり、果實は釀酒用に供す。

根皮を煎用すれば婦人消渴の特効薬なり又根皮の煎汁を毛根に塗れば脱毛を治する效あり内用量は一日一匁乃至三匁を毎食後に用う。

一、クマツヅラ (クマツヅラ科基本植物) 馬鞭草 海邊砂地に多生する多年生草本にして高さ二三尺方莖なり、葉は羽狀に深裂す、七八月頃枝梢莖頂に紫碧色の小唇形花を

穂狀に綴る。

開花時に莖葉を採取陰干とし煎用すれば發汗薬となり又月經不通に效あり用量一日一匁半乃至三匁毎食前分服す。

一、クララ (マメ科) 苦參 一名クサエンジュとも言ふ、山野に生する多年生草本にして莖高さ三四尺、エンジュの如き羽狀複葉を互生す、六七月頃白質にして淡黄色の蝶形花を穂狀に綴る、花後莢果を結び長さ二寸許に達す、有毒植物なり。

莖葉の煎汁を害虫驅除に使用する外種々の藥效あり即莖葉を煎用すればヨウ其他悪性の腫物を癒し、根を乾燥して煎用すれば熱毒を消し、カイセン其他の皮膚病及び諸寄生虫驅除に效あり又根を酢にて煎用すれば必ず野菜の中毒を全治す、又子實を煎用すれば瘡疹に效あり用量一日一匁乃至三匁位毎食後分服。

一、クリ (カクト科) 栗 栗のイガを黒焼にし胡麻の油を適宜加へて局所に用うれば毛生薬となる。

一、クリンサウ (サクラサウ科) 全體サクラサウに似たれども之より大形なり尙濃紅色稀に白色の美花を數層の輪狀に綴る、鉢植として愛玩せらる。葉の汁液を塗れば瘡腫に特效あり。

一、クルミ (クルミ科) 山胡桃 温帯低濕の沃地に自生する落葉喬木にして高さ六七丈に達し樹皮は帯褐紫黑色を呈し厚く密にして深き裂目を有す、葉は奇數の羽狀複葉にして鋸齒を有する有毛の小葉より成る、花は雌雄同株なり、花後核果を結ぶ大きき七八分核は極めて硬く表面に凸凹を有す、上野、信濃、丹波、陸中、北海道方面に多く自生す、小銃の臺木及び航行機のプロペラ製作用としては本種第一位にしてキハダ第二位なり、樹皮を染料とし實を食用とし又油を採る。

果實を生食すれば糖尿病を治し、蛔虫を驅除す又果皮を煎用して腺病、梅毒等の清血藥に應用し尙樹皮二匁を煎じ頓服してタコの中毒を消す、他は一日二匁を數回に分服す。

一、クロウメモドキ (タロウメモドキ科基本植物) 鼠李 山地自生の落葉灌木にして高三四尺乃至一丈許に及び、葉は楕圓形にして先端尖り縁邊に鋸齒を有す、枝に針あり

初夏黄綠色の小花を叢生し小豆色の果實を結び熟すれば黒色となる、果實はラムネ等、ラムニン等の配糖體を含む。果實を乾燥して粉末とし成は粉末を煎用し緩下藥として慢性便秘消化不良等に用う、一日一匁乃至四匁を毎食前に内服す。

一、クログワキ (カヤツリグサ科) 池沼等に生ずる草本にして泥中に赤褐色の球根を有し、高さ一二尺、トクサに似たる柔軟圓長の莖を叢生す、晩秋莖端に一寸許の穗狀花を綴る、地下の球根を食用に供す。球根を生食すれば黄疸に特效あり又消化を能くす、用量適宜とす。

一、クログマ (ゴマ科基本植物) 胡麻 作物の一種なり胡麻の種子には黑白茶の三色あり食用には黒色種を佳とし搾油には茶色種を良とす又婦人の髪に使用する油は白胡麻より採りたるものなり。黒胡麻の子實を胡麻鹽とし胃酸過多症に食用し又其儘若しくは細末として食用すれば強壯藥として陰瘻を治す、其他胡麻油を塗布すれば眼病に能く視力を壯健にし胡麻油を盃一杯

飲用すれば蛤、蜆等の中毒を消すこと妙なり。胡麻油は黄金色の脂肪油にして零度下五度に於て凝結して帶黄白色の軟膏様の塊となる。主成分はステアリン酸より成り、日本藥局方に於ては只本油をオレーフ油の代用品として擦劑、硬膏、軟膏等の製造に使用する。

一、クロマメ (マメ科) 黒豆 専ら煮豆として食用するものなり。種實の煮汁を飲用すれば狂犬の咬毒を治する效あり、用量適宜とす。

一、クワキ (オモダカ科) 慈姑 水田に栽培せらるゝ多年生草本なり、高さ二三尺、葉は箭狀をなし長き葉柄を有す、花は白色にして圓錐花序なり、地下に食用の塊莖を有す。

塊莖を摺卸したるものを塗れば火傷を治する特效あり。

一、クワツシアジユ (ニガキ科) 括失亞 西印度諸島原産の藥用の喬木或は灌木なり、葉は羽狀複葉にして葉柄に翅を有し葉脈は猩紅色を呈す、花は鮮紅色にして穗狀なり

果實は黒色の核果なり。

幹及び枝をクワツシア木と稱し、クワツシインと稱する苦味質を有するが故に煎劑又は丁幾を製し健胃藥として内服し、又人體無害の蠅取藥を製し、或は、ホップの代用品として麥酒に苦味を附するに用う、日本藥局方に之を認めたりしが第四版に至りて日本産のクワツシア木即ち後述苦木のみを収載せり。

一、クワリン (イバラ科) 榎楡 庭園に培養する落葉果樹なり、花はマルメロの花

に似て淡紅色なり、晩春初夏の頃五瓣の花を開く、葉は卵形にして鋸齒を有し下面に毛を密生し、莖高さ數丈に達す、樹皮は脱落して其跡雲紋を表し美なり、果實は楕圓形にして秋末黄熟す、芳香あれども滋味あり生食に適せず。

果實は一切の肺病、氣管支カタル、ルイレキ等に應用し奇效ありと言ふ、理學士松島種美氏は其著書たる藥草藥木速治法に於て又は其他の機會に於て數多の實例を引用し極力本果實の肺病に奇效あることを説述せり、同氏の所説に依れば肺結核の所謂第三期に達し病勢相當に進みたるものにも果實の煎汁を毎日何回となく番茶代りに飲用すれば六月間位にして全治したる實例尠からず而して本果實を煎用するには果實を輪切に細剉して陰干と

し時に應じて煎用す、分量は一定せされども可成多量に服用するを可とし飲み過ぎたりとも決して害とならずと言ふに在り、編者不幸にして實例を有せずと雖ども若し松島氏の所説の如くんば寔に藥界の最大福音なり、世の此病に苦しめる人一日も早く實驗して全治の愉快を得られんことを祈る所以なり。

一、クワンザウ (マメ科) 甘草 南部歐洲支那蒙古等に栽培せらる、多年生草本にして葉は羽狀複葉をなす數多の小葉より成る、初夏梢上葉腋に淡紅色の蝶形花を綴る。本植物の走根を採取したるものを甘草と稱し、主成分は、グリチルリチン、アスパラキサン及び葡萄糖等なり、内用には緩和藥、矯味藥等に應用し、日本藥局方の製劑は甘草越幾斯等なりとす、民間療法としては根を刻み其儘或は葛根を加へ煎用し一日半乃至一匁半を毎食前に内服すれば痰咳に效あり。

ケ、ゲ

一、ケイ (クスノキ科) 桂 南部支那及び東印度に産する常緑の喬木にして、高

さ五丈内外に至り芳香を有す、葉は廣披針形又は長楕圓形にして三條の大脈ありて強剛毛茸あり、花は小形類白色なり。

樹皮を桂皮と稱し、健胃藥、矯臭藥及び矯味藥に應用す、日本藥局方は單に支那桂皮のみを認め、東京桂枝、廣南桂枝等の如き劣等品は勿論錫蘭桂皮、西貢桂皮の如き外國藥局方に採用せるものをも之を認めず、却て後述の日本産たる肉桂と對照せしむ、桂皮の主成分は桂皮油にして、局方に於ては芳香散、芳香丁幾、桂皮丁幾、芳香阿片酒等を製するに用か、其用量は一回〇、五乃至二、〇瓦を極度とす。

一、ケイガイ (シンケイ科) 荊芥 一名アッタサウとも言ふ、北米合衆國の原産にして我國に栽培せらるる一年生草本なり、葉は腺狀を爲し莖高さ二尺内外に至る、夏日白質にして淡紅なる小形の唇形花を綴り、花後果實の成熟すると共に枯死す、果實は多量の脂肪を含み之より搾取して得たる油をヘノボチ油と稱し藥用に供す、坊間ネマトールと呼ぶもの即是なり、又葉及び花穂を乾燥したるものを煎用するも同效あり用量適宜なり。ヘノボチ油は健胃、驅風、清血、瘡毒、瘡腫、産後諸症、血ノ道等に能く、特に十二指腸

虫及び蛔虫の驅除に妙なり、用量は大人一回〇、六五乃至一、〇瓦又は二十滴乃至三十滴とす特に驅虫には空腹時又は瀉腸等にて腸管内を清めたる時に服用するを可とす。

一、ケイトウ (ヒユ科) 鶏頭、鶏冠 庭園に培養する觀賞用の一年生草本なり、原

産地は東印度にして花色紅白黃等ありて美なり。莖葉を採取し陰干にしたるものを煎用すれば痔疾の特效藥なり又紅色の花を有するもの、莖葉を煎用すれば古來赤痢の妙藥なりと言ふ又白鶏頭の花は腎臟病に利尿藥として應用す一日の用量は一匁乃至三匁毎食後一時間に服用す。

一、ケシ (ケシ科基本植物) 罂粟 ケシの果實を切りて滲出したる白色の乳汁を餅

の如き塊状に凝結せしめたるものを阿片と言ふ、阿片の主成分はモルヒネ及びコデインなり、阿片の應用は鎮痙藥及び止瀉藥を主とし日本藥局方の製劑は阿片越幾斯、阿片丁幾、芳香阿片酒等なり、腹痛、關節痛、鎮咳 大腸加答兒、下痢等に應用せらるゝも劇藥毒藥なるが故に容易に入手するを得ず。

一、ゲツケイジュ (クスノキ科) 月桂樹 南部歐洲及び小亞細亞の原産にして我國

に栽培せらるゝ常緑の喬木なり、葉は楕圓形にして革質光澤あり、春日葉腋に淡黄色の小花を開き雌木は豌豆大の卵圓果を結び晩秋熟して暗紫色を呈す、本種は戰勝の紀念木なり。

葉をローレル葉と稱し、矯味藥に供し、又料理及び菓子製造に用う、葉と果實とは消化藥に應用せられ又果實より採りたるローレル油は、リュウマチス、カイセン、瘡腫其他虫毒に塗布して偉效あるものとす。

一、ゲンチアナ (リンダウ科) 健質亞那 歐洲中部の山地に生する多年生草本にし

て莖高さ三四尺に及ぶ、葉は心臟形にして對生し、花は深裂せる黄色の五瓣花にして内部に綠色の線條あり。

根はゲンチアナ根と稱し、ゲンチアノーゼ、ゲンチジン等を主成分とする苦味性健胃藥にして胃病及び消化不良に使用すること、リンダウ、センブリ等と同様なり。日本藥局方に依る、單用の用量は一日數回〇、二五乃至一、〇瓦を散劑、丸劑又は浸劑として使用す、局方の製品は、ゲンチアナ越幾斯、複方ゲンチアナ丁幾等とす。

一、ゲンノシヨウコ (フウロサウ科基本植物) 牻牛兒 和名フウロサウとも言ふ山野路傍に自生多き多年生草本にして、莖は地上に匍伏し四五尺に達し所々に花莖をもたぐ、葉は對生して長柄を有し三乃至五個の掌狀に分裂し表面に紫黒色の斑點あるを常とす、夏日淡紅紫色又は白色の五瓣花を開く、花後蒴果を結び熟すれば果皮五裂して五種子を散す、關東地方にては白花を常とし紅花少きに反し關西殊に九州地方にては紅花を常とし白花を見るは極めて稀なるが如し。

八月頃の開花時に全草を採取し陰干とす、筑後地方にては土用の丑の日に採取する習慣あれども必ずしも此日に限らず開花の際なれば可なり、之を煎用すれば古來赤痢其他下痢一切の妙藥なりと賞用せらる、大人一日の分量は四匁乃至八匁にして小兒には少量の甘草を加へて煎服せしめ年齢に應じ四分の一或は二分の一を加減するを通常とすれども赤痢の場合には右用量を倍加するも差支なきが如し現に此場合三十匁説を主張する人々あり。右の外本植物は茶代用に煎服し胃腸の常用藥として特效あり、此点は編者も數年間實驗者の一人なり、又煎汁にて一切の腫物の傷口を治し、子宮内膜炎にも特效ありと稱せらる。本植物は近時赤十字病院其他の公設病院に於て赤痢の場合に應用せらるゝに至れり、其成

分は未だ完全なる報告を見るに至らざれども、今日の學說に依ればプロトカチヒエリ酸、ブレンツカチヒン等の収斂性化合物其他少量の揮發油なりとあり、兎に角最有效果確實なる民間藥の一なりとす。

コ、コ

一、コガネバナ (シンケイ科) 黄芬 一名コガネヤナギ又はワウゴンとも言ふ、園培せらるゝ多年生草本にして春日宿根より新芽を出し夏季に至れば莖高さ二尺内外に及ぶ、葉は披針形にして細長く柳の葉に似たれども葉柄なく對生す、夏日莖頭枝上毎葉腋に一花を出しタツナミサウの如く一側に向ひて穗狀を爲す、花色に紫、淡紫、帶青、白等あり以て觀賞用となすに足る、根は深黄色にして長大頗硬し、根を藥用とし其成分はスクテラリンなり。

秋彼岸頃根を採取乾燥し必要に應じて之を細切煎用すれば解熱藥として感冒、肺病、咳痰

等に特效あり、一日五匁乃至十五匁毎食前に分服す。

一、コクサギ (ヘンルウダ科) 常山 山地溪谷に生ずる落葉灌木にして高さ五六尺なるを常とす、葉は倒卵形にして光澤を有し異臭あり、初夏葉腋に淡黄白色の小花を綴る、雌雄異株なり、蒴果を結び裂開して種子を散す。根を煎用すれば鎮咳祛痰、解熱に效あり、用量一日一匁半乃至三匁食前分服。

一、コケモモ (シヤクナゲ科) 越橘 一名イハナシ、ハマナシ、イハモモ、オヤマリンゴ等と稱す、我國中部の高山、北海道樺太地方の原野に自生する常緑の小灌木にして高さ僅に五六寸に過ぎず、葉は黄楊に似て楕圓形或は倒卵形全邊なり、夏日莖頂に紅色壺状の美花を綴り球形の漿果を結び秋日紅熟す、葉はアルブチンを主成分とし果實は糖分の外種々の有機酸を含む、果實より一種の酒を製し又ジャムを造る、葉及び果實を薬用に供す。

葉を陰干煎用すれば利尿薬として麻疹及び腎臓病に效あり又熟果を其儘食するか或は其絞汁を白湯若しくは砂糖湯に薄めて服用すれば強壯薬として老衰虚弱を回春せしむ、用量は

一日五匁乃至八匁を毎食前に分服せしむべしと言ふ。

一、ゴシユユ (ヘンルウダ科) 吳茱萸 普通園圃に栽培せらる、支那原産の亞喬木にして高さ一丈餘に達するものあり、葉脈、葉柄等に軟毛を密生し葉は羽狀複葉なり、初夏黄緑白色の小花を繖形花序に開き花後紫紅色の小果を結ぶ、果實にはエポジアミン、エポチン、ルテカルピン等を含む。

藥物上の用途頗廣し即果實を天日に干して煎用すれば痔疾、感冒、消化不良に能く、陰痿、咳痰、疝氣、脚氣、水腫を治す又未熟の果實を暫時熱湯に浸し若しくは本果實に乾シヤウガを等分に加へて煎用すれば便秘を癒し嘔吐を止むるのみならず、カクラン即夏に起る烈しき吐瀉病にも特效あり、一日の内服量は半匁乃至一匁半位とす。

一、コセウ (コセウ科基本植物) 胡椒 前印度西南地方、南北兩米地方に栽培せらる、蔓狀の灌木にして、葉は卵形にして先端尖り、五六月頃白色花を開く、果實は豌豆大の漿果にして初めは綠色、中頃は紅色、熟すれば黄色に變ず、果實の成熟前に採取したる漿果を黒胡椒と稱し、果皮を除去したるものを白胡椒と稱す、氣味峻烈芳香性にして灼く

が如し、佳良なる香味料なり。
本品を解熱薬として間歇熱に應用し又健胃薬として使用する、日本薬局方の採用する所にして、健胃薬としての用量は一日〇、五乃至一、〇瓦なり、

一、コセウサウ (ジウジクワ科) 歐洲渡來の草本にして一名セルレデーと稱し西洋料理に使用する蔬菜なり、實はカイセンを治するに外用し痘疹を治するに内服すと云ふ。用量一匁一匁半乃至二匁半毎食前分服。

一、コナスビ (サクラサウ科) 園圃に生ずる丈五寸内外の小草本なり、葉は圓形にして對生し裏面に褐色の細點あり、初夏葉腋に黄色の花を綴り茄子に似たる青き小果を結ぶ、故にコナスビの名あり。葉を採みて塗布すれば腫物に效あり。

一、コノテガシハ (シヨウサン科) 側柏、兒手柏、北部支那の原産にして我國各地に園養せらる、常緑の濃木なり、幹高さ六七尺より一丈内外に達す、葉は檜に似たる

小鱗葉にして表裏の區別なし、花は單性にして顯著ならず、雌雄同株なり、果實は莢果にして大さ四五分麥粒大の種子を包藏す、葉は多量の揮發油を含み種子亦同油を含む。種子即柏子仁を煎用し或は粉末とし白湯にて服用すれば強壯薬として陰痿を治し又乾葉を煎用すれば利尿薬として麻病に能く且一切の婦人病に用ひて效あり、其他生葉の揉汁を塗布するか或は乾葉を濃く煎じて罨法すれば火傷湯傷に妙なり、種子は一日一匁乃至三匁、葉は一日一匁半乃至四匁を内用量として毎食後に分服す。

一、コバイバ (マメ科) 一名コバイバルサムとも言ふ、熱帶亞米利加に産する喬木にして高さ二丈内外に及ぶ、葉は偶數羽狀複葉にして四個乃至十個の革質の小葉より成る、花は白色の四瓣花にして楕圓形の莢果を結び、中に一個の種子を藏す。幹に穴を明け浸出せしめたるものは即バルサムにして芳香あり然も苦味なり、之をコバイバルサムと稱して藥用に供す、尿道諸器管の疾患特に麻病に應用す、日本薬局方の採用する所なり、用量一日三四回〇、五乃至二、〇瓦とす、各地藥店に在り承合の上求めらるべし。

一、ゴバウ (キク科) 午勞 有用なる根菜の一なり。

根を煎用すれば健胃整腸、利尿及び瀉下に效あり、又種子は利尿薬として痲病水腫病に用ゐる或は消毒薬として瘡腫便毒等に用う、試に種子二三粒を飲下すれば腸の出でざる腫物も必ず口を開く、種子は一匁乃至二匁根は二匁乃至四匁を毎食後に分服す。

一、コマツナギ (マメ科)

原野に多き歸化の草本状小灌木にして概形印度及び我國臺灣に産するインドアキ即木藍に似たり、莖高さ二三尺に及ぶ、葉は奇數の羽状複葉にして莖に互生し各小葉は小倒卵形なり、夏より秋に亘り紅紫色の小蝶形花を穂状に綴り圓形五六分大の莢果を結ぶ、馬の好んで食する植物なり、別種ヒメコマツナギ、オホコマツナギ、ミツバコマツナギ、ナンバンコマツナギ等の品種あり。

數年前編者の生村某氏が胃瘡撃と診定せられたる際或人の勸告に依り本種を煎用治癒し今尙壯健なり其後若干の人々が宿病の胃腸病を一月内外煎用治癒したるより郷人争ひて本種を採取貯蔵せり其成分等未だ判明せざるも編者は之を公表して世人の實驗を促む、用量適宜なるが如し。

此に附言す、動物の自然療法が人類に藥用上の知識を與へたる古來其例に乏しからず、犬

のタバキの如き、鳥の破浴の如き又猫のマタタビに於けるが如し、馬が本種を好む美味なるに因るか抑も亦他に理由あるに因るか。

一、コヒーノキ (アカネ科)

珈琲 東部亞弗利加の原産にして今はブラジル、セイロン、ジャワ等に移植栽培せらるゝ常緑の喬木にして高さ二丈五六尺に達するものあり、葉は長卵形にして先端尖り、花は白色にして筒状花なり、先端深く五裂す、果實は肉質にして二個の種子を蔵し、初めは綠色、中頃紅色、終に紫蓋色となる。

種子はコヒーネ其他の成分を含有し興奮薬となる、分量適宜とす。

一、ゴマノハグサ (ゴマノハグサ科基本植物)

玄參 原野に生ずる多年生の草本にして方莖なり、高さ五六尺に達す、葉は本廣く末尖り對生するを常とす、八九月頃細枝を互生し、淡黄綠色の花を開く。根莖を煎服すれば、陰瘡を治し、咽喉炎に能く、ルイレキに效あり、用量一日二匁乃至五匁毎食前に分服す。

一、**コルヒクム** (ユリ科) 和名イヌサフランとも言ふ、地中海沿岸地方に原産する球根草本にして莖高さ四五寸に至る、葉は狭長にして平行脈あり、秋日莖頂に紅色の漏斗状花を開く、蒴果熟すれば褐色となり裂開す。
 成熟したる種子はコルヒクム子と稱し、コルヒチンを含むが故にコルヒクム丁幾を製劑し、リュウマチス及び痛風の特効薬となす、日本薬局方の認むる所なり、用量は一日數回〇、〇三乃至〇、一を丸劑又は粉劑とす。

一、**コロシントサウ** (キウリ科) 古魯聖篤草 地中海沿岸及び南部亞細亞等に原産する一年生の蔓草にして、概形西瓜に似て白色の密毛あり、莖細くして五六尺に及び葉鬚あり、花は黄色にして雌雄同株、雄花を下部に雌花を上部に綴り、果實は橙大にして黄熟し、中に扁平卵圓形の多數の種子を含む。
 果實の外皮及び種子を除去し乾燥したるものをコロシント實と稱し、臭氣なけれども味極めて苦し、主成分はコロシンチンにして峻烈且確實なる下劑なり、コロシント越幾斯及び丁幾等を製す、其用量に依り或は緩下薬となり或は峻下薬となる、日本薬局方に依る峻下薬の用量は、〇、〇五乃至〇、二瓦を一日一二回散劑又は浸劑として用う、多くは他薬に

配劑して之を用う。

一、**コロンボ** (ツツラフデ科) 古倫僕 東部亞弗利加沿岸に産する多年生の纏繞性草本なり、葉は巨大にして掌狀に分裂し互生す、花は小形の黄色にして雌雄異株なり、花後核果を結ぶ。
 根をコロンボ根と稱す、コロピン、コロンボ酸、コロンバミン、澱粉等を含有し、コロンボ越幾斯及び丁幾を製す、収斂性の苦味劑として健胃薬に應用し又慢性下痢に應用す、用量は通常十五瓦を二百瓦の煎劑として用う、日本薬局方の示定する所なり。
 一、**コンニヤクイモ** (テンナンシャウ科) 蒟蒻芋 作物の一なり、地下の球莖を摺潰して貼ればヨウ其他の悪性腫物を治す。

一、**コンブ** (コンブ科基本植物) 昆布 全草を食用するか又は昆布茶として用うれば齒牙を強壯にし胃弱を治す、一日の分量一匁内外を適度とす、尙虫齒には昆布を黒燒にして粉末とし之を空洞に填充するを能しとす。

サ、ザ

一、サイカチ (マメ科) 皂莢 山野河原等に生ずることある落葉喬木にして老大なるものは五六丈に達す、幹枝に刺多し、葉は一回又は二回の羽状複葉なり、六七月頃葉間より淡黄色の蝶形花を綴る、花後扁平なる莢果を結び其長さ一尺許なり、莢の煎汁を洗濯用に供す、種子にはエモヂンを含む。

莢果を煎用すれば疝氣、痛風、感冒、子宮病等に特效あり又莢果を細削し風呂に入れ度々浴すればカイセン、水虫等の痒みを止む又莢果を多量の水にて三分の一に煎じ詰めイタミ目、シブリ目に點眼或は罌注す、内用量は適宜とす。

一、サイハイラン (ラン科) 山中の樹蔭溪間等多少水濕の地に自生する常緑の多年生草本なり、地下莖は球状を爲し一莖一葉なれども時に二葉を生ずるものあり、葉は披

針状にして先端尖る、五月頃葉側より花莖を抽くこと一尺餘に達し淡黄帯褐にして唇瓣紅紫斑ある花を一侧に垂下し穂をなすこと五寸内外なり、花形昔時武士の用ひたる采配に似たり故に此名あり、觀賞用として栽培するに足る、球莖を薬用とし成分は殆ど全部粘液なり、日本産サレツプ根と言ふ。

地下莖は之を摺卸し飯粒と練りてヒッ、アカギレに貼布して特效あり、子根を煎用すれば胃腸加答兒に效あり以上は民間薬にして一日の用量一匁乃至四匁又サレツプに代用して丸薬を製するに用う。日本薬局方の認むる所なり。

一、サクラ (イバラ科) 櫻 花を以て有名なる本種は又其樹皮、葉及び花を薬用に供することあり。開花前後に青皮を採取し細削して乾燥したるものを一日凡そ五匁乃至八匁の分量にて煎用すれば感冒に基く咳を鎮め痰を去り且魚類の中毒を消す效あり又嫩葉を鹽漬けにしたるものを食用すれば同様魚毒を消し尙花を鹽漬にしたるものを白濁に振出して内服すれば酒毒を治すと言ふ。

一、ザクロ (ザクロ科基本植物) 安柘榴 ヘルシヤ地方の原産にして歐洲南部及び

支那等に傳はり古來我國にも栽培せられ一般に知らるゝ落葉灌木なり、全體を觀賞用とし果實を食用とす、一體にタンニン其他の成分を含む。

幹皮及び根皮を柘榴皮と稱し藥用に供す、日本藥局方には繸虫、十二脂腸虫其他諸寄生虫の驅除に使用すと示定あれども右の外根皮を薫燒すれば水虫を治し、花全体を蔭干にしたるものを適宜煎用すれば下痢を止め、コシケにも大效あり。

繸虫驅除には柘榴皮を煎用す、即柘榴皮約五匁を一合五勺の水に一晝夜浸出したる後之を一合位に煮詰め、一面患者は一日若しくは二日間絶食し、適宜服用して三十分間位經過したる後、ヒマシ油を適宜飲用すれば必ず驅除するものなりと言ふ。右は民間療法なるが局方としては繸虫の種類に依り、三十瓦乃至六十瓦を煎劑として用ゐ、六年未滿者には十瓦乃至十二瓦、六年以上十年未滿者には二十瓦乃至三十瓦、十年以上十五年未滿者には三十瓦乃至四十瓦、尙一年未滿者には此療法を許さず。

一、**ザゼンサウ** (テンナンシヤウ科) 地勇金蓮 一名ダルマサウとも言ふ、山中溪間の蔭地に生ずる多年生草本なり、皮はスベート形にして短く廣く大なるものは長さ二尺に達す、形を採りてダルマサウの名あり、春日新葉と共に花莖を抽ぎ頂上に佛燭花を開く。

葉を揉みて其汁を塗れば毒蟲の螫毒に效あり。

一、**サタウキビ** (カホン科) 甘蔗 一名サトウノキ又はサトウダケとも言ふ、原産地は不詳なれども多分亞細亞の熱帯地方なるべし、我國に栽培したるは二三百以前にして支那より傳來したるものなりと言ふ、臺灣、琉球、小笠原島等に盛に栽培し其の總産額二億斤を突破し總價格金亦數千萬圓に達すれども尙母國の需用を充すに足らず年々東印度、支那等より巨額の輸入を絶たず、本來莖葉共に玉蜀黍に似たる多年生草本なれども我國の如き温帯地方に於ては一年草となり毎年種莖を用ゐて繁殖を計るべき手数を要す、之より諸種の砂糖を製し食用又は藥用に供す。

和漢洋三方を通じて之を概言すれば本品の甘味と防腐性とを利用して殆ど總ての場合に應用せざるなし、日本藥局に於ても舍利別劑には單獨若しくは基礎的に本品を應用し其舍利別復他物に配伍して各般の疾病治療に活用せらるゝ、敢て細條小節に亘り説述の必要なしと信ず。

一、**サツサfras** (クスノキ科) 薩沙富拉斯 北米原産の落葉喬木にして高さ二三

丈に達す、葉は卵形又は倒卵形にして往々三裂し褐色の葉柄を有す、花は葉に先立ちて開き、緑黄色にして雌雄同株なり、花後藍黑色にして卵圓形の漿果を結ぶ。

巨大なる根木をサツサfras木と稱し藥用に供す、サフロール、サフレーション、オイゲノール等を含有するが故に油を製する外、發汗、利尿、梅毒、リュウマチス症等に應用し又粉粧藥として賞用せらる、日本藥局方の認むる所にして本品五瓦水百瓦の割合の浸劑として使用すべきものとす。

一、サツマイモ (ヒルガホ科) 甘藷 一名タウイモ、カライモ、リウキウイモ等と稱する世間周知の食品なり。

地下の塊根を芋粥にして食用すれば赤痢を治するに妙なり恰もニラ雜炊の場合の如し。

一、サトイモ (テンナンシャウ科) 青芋一にイモ又はハタケイモとも言ふ、東印度及び馬來半島の原産にして同じく同胞の有用なる食料品なり。

葉柄より出る汁液を塗れば蜂の螫毒に妙效あり又根莖を輪切にして度々摩擦すればイボを落すに效ありと言ふ。

一、サネカヅラ (モクレン科) 南五味子 一名ピナンカヅラとも言ふ、山野に生ずる蔓性の常綠灌木なれども往々觀賞用として庭園に培養せらる、ことあり、葉は楕圓形にして先端尖り葉質厚く光澤を有せり、七八月頃葉腋より淡黄白色の五瓣花を下垂す、果實は小球の集合より成り紅色を呈し直徑一寸許に及ぶ、莖の粘液を採り製紙の糊料に供す故に又之をトロロカヅラと稱す。

果實を煎用すれば健胃強壯藥として精力を増進し、鎮咳祛痰藥として喘息、氣管支加答兒に用ゐられ又タムレ目に用ゐらる其他莖の粘液を鬚髮に塗りて之を美にす、内用量は一日半匁乃至一匁半毎食前に服用す。

一、サフラン (イチハツ科) 洎美蘭、蕃紅花 原産地はペルシヤ、小亞細亞地方にして我國にても有利なる栽培植物として知らる、多年生の藥草なり、葉は松葉形にして長し、九月頃種球を畑地に栽植すれば十月頃葉を出し十月より十一月にかけて紫色の美花を葉間より出す、六瓣六雄蕊にして中央に黄赤色の雌蕊三本あり、數年前のサンデー毎日なりしと記憶す、但馬の僻地の税金滞り勝なる某貧村が養蠶用の桑畑の間作として一般に

本植物の栽培を始め老若男女總動員にて花の摘取乾燥に勉め又製品は大阪の薬店と特約販賣を實行したる結果期年ならずして村力回復地方の模範村となりたる旨の記事を見たることあり、海外輸出の金額も年々數萬圓又は十數萬圓を下らず、況んや内地に於ける需用近年噸に増加したる傾向あり、農家の副業として栽培期間の極めて短き点に於て頗有望なるものゝ一なりと自信す。

薬用に供するものは雄蕊頭にして之をサフランと稱し、主として健胃、鎮痙薬として婦人病に特效ある外菓子、食品を黄色に染むるに用う。日本薬局方は、サフラン丁機、芳香阿片酒を製するに應用せり、用量は一日數回〇、一乃至〇、五瓦を使用す、多服すれば中毒症を起し墮胎の虞あり、注意せらるべし。

一、サボテン (サボテン科基本植物) 仙人掌 メキシコ、ブラジル、西印度諸島等の原野に産する多年生の肉質草本にして莖に正圓、長角、扁平等種々の形状あり通常綠色にして葉の作用を營み、葉は變化して針となり、根は鬚根にして其數少なし、種類に依り或は春、或は夏、或は秋、黄白緋紅等の美化を開く、我國に於ては主として觀賞用に栽培し園藝品種實に五百餘種に達すと言ふ。

全部を摺卸して汁を飲用すれば脚氣衝心に特效あり又肉質部を摺卸し汁を去り之を其儘又は飯粒と練り紙に伸べて貼用すれば、チヨウの膿を吸出す特效ありと稱せらる。

一、サホヒメ (ゴマノハグサ科) 地黄 一名ヂワウとも言ふ、往時支那より舶來の多年生草本にして莖高さ僅に五六寸なり、葉は長楕圓形にして互生し縁邊に鋸齒あり、夏日梢上葉腋に紅紫色の唇形花を綴る、稀に黄白色の花あり、前者をアカヤヂワウと稱し後者をシロヤヂワウと稱す、鉢植として賞觀の價値あり、根を薬用に供す。秋彼岸頃根を採取乾燥して一日一匁乃至三匁を煎出毎食前に分服すれば強壯薬として老衰虚弱、神經衰弱、肺勞等に特效あり又通經薬として月經の不通或は不順に特效あり。漢方秘傳の強壯薬に六味地黄丸と稱するものあり即地黄八匁、山藥四匁、山茱萸四匁、茯苓三匁、澤瀉三匁、牡丹皮三匁以上六味の粉末を蜂蜜にて練り合せ丸劑二百粒を製し毎食後十粒宛を鹽湯にて飲用すべきものとせり。

一、サルヴィヤ (シンケイ科) 中部歐洲に原産する多年生草本にして我國にも薬用として栽培せらる、莖高さ三尺内外に及び下部は木質なり、葉は披針形にして鋸齒あり、七

八月頃梢上穗状を爲して淡藍紫色の唇形花を綴る。
葉を乾燥したるものをサルグアイヤ葉と稱す、氣味芳香性にして稍苦く収斂性あり、茶劑として一日五瓦を内用し、咽喉炎に本品一瓦水百瓦の割合にて含嗽劑として外用す、日本藥局方に於て之を認む。

別種ベニバナサルグアイヤ、カブラバノサルグアイヤ等あり、我國に於て隨所に栽培せらるゝものあれども、是等は觀賞植物にして彼是混同せざることを要す。

一、サルヲカゼ (サルヲカゼ科基本植物) 松蘿 一名サガリゴケ又はマツノコケとも言ふ、深山に普通なる地衣類にして多くは樹梢より懸垂し全體帶黃綠色を呈す、糸或は紐状に分岐し數多の枝條を爲す、長さ二三寸より往々一尺餘に達するものあり、老成部は表面に多數の輪狀裂紋を有し區劃せらるゝを以て著し全體を藥用に供す、有效成分はウスニン酸及びバルバチン酸なり。

全體を天日に乾燥して煎用すれば利尿藥として痲病、腎臟病等に特效あり又鎮咳祛痰藥として感冒、喘息、肺病等に特效あり、用量一日一匁乃至四匁毎食前に分服す、之を煎するときは少量の甘草を加用するも可なり。

一、サルサ (ユリ科) 撒兒沙、撒爾沙 一各サルサ、バリルラとも言ふ、ペルー、メキシコ等の熱帶地方に産する植物にして概形サルトリイバラに似たり、葉は心臟形に互生し、長柄を有して托葉は卷鬚に變じ、基脚に於て莖に刺あり、花は葉腋より生じ花後紅色の漿果を結び三種子を含む。

根部をサルサ根と稱し藥用に供す、バリルリン、スミラチンを含有するが故に専ら梅毒性の疾患に應用し、通常複方サルサ舍利別及び複方サルサ煎として用ゐらる、日本藥局方に之を認む、用量は一日三十瓦乃至五十瓦極度とす。

一、サルトリイバラ (ユリ科) 菝葜 山野に生ずる多年生の蔓性木本なり、莖は細くして節毎にゆがみ多くの刺を有す、葉は楕圓形或は殆ど圓形にして葉柄の基脚に托葉の變形せる二本の卷鬚を有し他物に纏ふ、初夏葉腋に黃綠色の小花を綴り、雌雄異株にして雌本には秋日赤色果を結ぶ。

地下根を煎用すれば梅毒の發汗利尿藥としてサルサ根と同等の特效あり又痲病、痛風、下痢止に效あり其他葉を煎用し温き内多量に服すれば感冒にも效あり、根は一日二匁乃至三

勿、葉は一日五匁位の分量とす、支那の山歸來に對し一に和山歸來とも言ひ筑後地方の方言はイゲにしてイゲノハ饅頭を造るに用う。

一、サルノコシカケ (サルノコシカケ科基本植物) 樹幹に寄生する硬質の菌にして太さ四五寸より一二尺に及ぶものあり、猿が腰を掛くるに適する様附著せるを以て此名を得たるものなるべし。

全部を煎用すれば心臟病及び半身不隨に效あり殊に梅樹に生じたるものは痲病に又椎樹に生じたるものはリュウマチスに各特效あり久留米市内に實驗者あり煎用量及び服用時等は適宜なるが如し。

本品に似たるものにマンネンダケ即靈芝あり有柄の一事を以て本品と區別す。

一、サレツブ (ラン科) 沙列布 中部歐洲に原産する多年生草本にして莖高さ三尺内外、葉は廣披針形にして互生し平行脈を有す、花は帯紅色にして鮮美なり、不齋にして穂状を爲す。

開花時に生じたる子根を採取し熱湯に浸したる後乾燥したるものを、サレツブ根と稱し藥

用に供す、主成分は粘液にして澱粉を含有す、煎劑となし包攝藥として胃腸加答兒に應用す、日本藥局方の認むる所なり。

一、サンザシ (イバラ科) 山樅子 園圃に培養する落葉の小木本なり、幹高さ五六尺所々に針狀の枝あり、葉はクサビ形をなし鋸齒あり、春日リンゴの花に似たる白色の五瓣花を開き、果實は直徑六七分にして熟すれば赤色又は黄色となる、果實の成分は未だ判明せざれどもタンニンを含むもの、如し。

果實を煎用すれば痲病の濕熱を去り、月經を通じ、利尿藥となり、諸瘡を治す、又果實の核を除去して乾燥したるもの及び生葉は魚又は鳥類の毒を消すに妙なり其他魚類に果實を加へて煮れば骨を軟かならしむる效ありと言ふ、内用量は一日一匁半乃至三匁を毎食前に服用す。

一、サンシチサウ (キク科) 三七草、土三七 山野に生ずる多年生草本にして莖高さ三四尺に達す、葉は羽狀に深裂し各裂片鋭き鋸齒を有すれども莖葉共に柔軟にして光滑なり、八九月頃莖梢に黄色の頭狀花を綴る。

古來藥用として有名なり、葉を生じ儘揉みて其汁液を患部に塗れば毒虫の螫毒を即治す、切傷、打撲傷の場合にも痛を止め、創痕を癒すこと妙なり、編者の數々體驗する所なり、又生葉なき場合を豫想し本草二分を稀酒精十分に浸出して丁幾を製し置くも一策なり。

一、サンシユユ (サンシユユ科基本植物) 山茱萸 支那の原産にして園培する高さ一丈餘に達する落葉喬木なり、葉は長楕圓形にして先端尖り對生す、早春葉に先ちて黄色の小花を簇生し花後楕圓形の赤色果を結ぶ、恰もグミに似たり、多量の糖分と有機酸とを含む。

果肉のみを天日に干し煎用すれば強壯藥となり又此煎汁は耳鳴、耳ダレ、小便過多、月經過多性にも特效ありと言ふ、一日内服量二匁乃至四匁。

一、サンセウ (ヘンルウダ科) 山椒、秦椒 山野に生ずる高さ一丈内外の落葉灌木にして莖に刺あり、葉は羽狀複葉にして鋸齒あり、春日綠黄色の小花を開き秋日に至り乾果熟して紅色となり黒色の小子實を裂開す、若葉をキノメと稱し調味に用ゐる子實を食用及び藥用とす、成分は揮發性の山椒油なり。

未熟の子實を煎用すれば頭痛、解熱、胃弱、霍乱に能く、又之を數粒飲下すれば下痢止となる、又子實を藥味とすれば魚毒を消す特效あり、内用量は一日半匁乃至一匁半位とす。

一、サントウ (サントウ科基本植物) 山藤 一名トウツルモドキとも言ふ、小笠原島、琉球、臺灣等に生ずる木質の上昇性植物にして、葉は披針形頂に卷鬚あり互生し莖は細長なり、花は白色にして小なり、觀賞用として園養する人あり。葉を収斂藥として使用す。

シ、ジ

一、シウカイダウ (シウカイダウ科基本植物) 秋海棠 園養せらるゝ多年生草本にして莖高さ二尺内外、葉柄及び莖は紅色にして明瞭なる節を有し頗多汁なり、葉は心臟形にして不平等なり、互生して縁邊に鋸齒を有す、九月頃枝梢上に紅色蝶形の美花を綴り雌

雄同株なり又果實に翅あり。
生葉の絞汁を塗布するか或は揉葉を火に焙りて貼付すればカイセン、田虫、水虫等の皮膚病又はヨウ、テウ等の悪性腫物に效あり尙同絞汁を微温湯に溶し盃一杯位宛毎食前に内服すれば利尿薬として效あり。

一、シラン (キク科) 紫苑 園養せらる、多年生草本なり、春日舊根より長楕圓形の葉を叢生し後數莖を出して通常葉を互生す、莖高さ四五尺に及び、秋日淡紫色の美なる頭狀花を開く。

根を煎用すれば鎮咳、祛痰の效あり用量一日一匁乃至三匁とす。

一、シクンシ (シクンシ科基本植物) 使君子 東印度地方に生ずる常緑の蔓性木本にして我國に於ても觀賞用として栽培せらる、高さ二丈内外に及ぶものあり、葉は卵形にして短柄を有し對生す、夏より秋に亘り莖頂葉腋に花軸を出し長梗を有する黄緑花を下向に綴る、莖葉共にタンニン含有す。果實數個を焼き白湯にて頓服すれば蛔虫驅除に特效あり。

一、シシウド (サンケイ科) 柵油 山野自生の二年生草本にして莖高さ六七尺に達し、葉は大形の羽狀複葉を互生す。莖葉共に毛茸に富む、秋日淡白綠色五瓣の複繖形花を綴る、花後暗紫色の果實を結ぶ。地下莖を煎用すれば疝氣、解熱に能く、中風に效あり、又破傷風にも有效なりと言ふ、用量適宜とす。

一、シソ (シンケイ科) 紫蘇 一般周知の蔬菜なり、葉を陰干とし煎用すれば血液の循環を良くし、發汗驅風に效あり又子實を煎用すればセキを鎮め、タンを去り、利尿に有效なり尙莖を陰干とし其五匁位を約二合の水に入れ四五回煎用し青の鼻汁の出づる様なれば腦癩を全治したるものなりと言ふ、尙葉を生食すれば蟹の中毒を消すこと妙なり。

一、シナ (キク科) 支奈、攝綿支奈 一名セメンシナとも言ふ、中央亞細亞殊にトルキスタン地方に原産する半灌木狀の草本なり、莖高さ二三尺、特異の臭氣を有し、葉は羽

状に分裂し其數少なし、花は小形の頭状花にして黄色なり、其形ヨモギの花に似たり。未開の小頭状花をシナ花と稱す、時日を経過すれば褐色を呈し、芳香あれども味不快にして清涼なり、其儘粉末となして薬用することあれども、多くは之より、サントニーネを製し蛔虫驅除に應用す、日本薬局方の用量は年齢に応じて一回〇、五乃至四、〇瓦とし尙本品を用ひたる後、ヒマシ油、ヤラバ根の如き下劑を用うべきものとせり。

一、シヒタケ (マツタケ科) 椎茸 香蕈 春季より秋季にかけシヒ、ナラ、クリ等の枯木に寄生する菌類にして自生のもあれども多くは人工を以て産出し市場に販賣せらるゝ貴重なる調味料なり。

本品の金部を煎用すれば心臟病に特效あり又編者の家庭にては解熱薬に用うるを常とし相當の效能あり、用量適宜とす。

一、シャウガ (メウガ科) 生薑 熱帯亞細亞の原産なれども我國に於ては食用及び薬用として栽培せらる、根の或分は澱粉の外芳香性の揮發油と辛味のギンダロールなり。根莖を煎用すれば芳香性健胃薬として特效あり又發汗驅風薬としても特效あり。尙其絞汁をカイセン或は毒虫の整傷に塗布すれば治すること妙なり、粉末となして内服す

るも同效あり、一日分の用量は二瓦乃至三瓦なり、日本薬局方に於ても本種を認む。

一、シャウブ (テンナンシャウ科) 菖蒲 端午の節句に湯を立て、入浴する菖蒲を言ふ。

莖葉共に佳良なる香氣を有するを以て香原料としての香水を採取す、日本薬局方に於ては香水原料の點のみを認め居れども地下莖を煎用すれば前種シャウガと同じく芳香性健胃薬となる、一日の用量は一瓦乃至二瓦なり。

一、ジャガタライモ (ナス科) 馬鈴薯 一名ジャガイモとも言ふ、南米ペルー及びチリ等の原産にして我國には和蘭人の手を経て瓜哇即當時のジャガタラより輸入したるが故に此名あり、食用品原料として用途頗廣し。

塊莖を食用すれば肉類の毒を消す效あり。

一、ジャカウサウ (シンケイ科) 鈴子香 山林樹蔭に生する多年生草本にして莖高さ一尺より二三尺に達す、葉は卵圓披針狀にして鋸齒を有し對生す、莖葉共に微毛ありて